

2025 年度 研究所事業報告書

研究所名	アート・リサーチセンター
------	--------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2025 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

アート・リサーチセンター（以下、ARC）は、国際共同利用・共同研究拠点としての6年間の活動を評価され、2025 年度より第2期目としての活動を開始した。本年度は、この認定期間（6年間）のうち、初年度にあたる。これまで ARC は、「文理融合型」研究や、デジタル・アーカイブ基盤の構築などの面から、国内外のデジタル・ヒューマニティーズ型研究の充実に貢献するとともに、世界的な拠点として国内外の研究交流や若手研究者の育成にも取り組んできた。さらに、国際共同利用・共同研究拠点（ARC-iJAC）として、世界の日本文化研究者・研究組織を対象に、約 100 件のプロジェクト研究を受け入れ、その活動を牽引してきたことによる責任の大きさを考慮すれば、ARC が進むべき方向性は明確である。ARC には、「デジタル・アーカイブのさらなる推進」と「リサーチ・スペースのリッチ化」という両輪の基盤形成や維持が求められる。その結果、実現するであろう新たな研究戦略としての生成 AI の活用をへて、「総合知アリーナ」が創出され、だれもが研究対象にアプローチできるデジタル・パブリックヒューマニティーズが実現する。ARC の 2025 年度以降の展開は、この推進である。

2025 年度は、上記の活動を達成したり、充実させたりすることを目的に、以下の 6 つの課題をあげた。

(1) デジタル・アーカイブ活動のさらなる推進（リソースおよび技術の双方の追求）

夏・春の海外デジタル化遠征を大規模に展開した（UC Berkeley, UCLA, UCSF。欧州では、パリ装飾芸術美術館附属図書館（フランス）、キヨッソーネ東洋美術館（イタリア）、V&A 美術館（英国）、五大陸博物館（ドイツ）、アート・デザイン美術館（ドイツ）、ライデン世界博物館（オランダ）、王立博物館・美術館（ベルギー）など）。国内でも、いくつかのテーマのデジタル・アーカイブを実現した（川島織物セルコン、国立音楽大学の 100 周年記念行事へのサポートなど）。

(2) ARC 型 DH 教育普及活動による国内・海外におけるデジタル化ブランチの形成

前年度に形成した米国 UCLA のデジタル化ブランチをはじめ、各国の主要機関との連携強化を図った。国内では前年度に報告した関東方面のチームを維持しつつ、人間文化研究機構の DH コンソーシアム会議を本学で開催する取り組みも行った。

(3) デジタル・アーカイブ技術を活用した地域連携モデルの推進

これまでの成果を活かし、地域連携に取り組んだ（プロジェクトレベルでいえば、喜多方市、京都市、東近江市、野路町との連携など）。なかでも、赤穂市とは継続的な連携ができており、2025 年度も忠臣蔵デジタル展覧会を開催できた。他大学図書館、専門図書館、博物館の収蔵品の公開のための活動や地域コミュニティの歴史アーカイブなど広いニーズへの対応によって ARC の文化資源アーカイブのすそ野を広げている。また、長い歴史のある企業の資料をアーカイブすることによって専門性の高い学術情報に転換している。

(4) 生成 AI などの最新技術を応用した強力なデジタルツールの開発の加速化

産学連携を通じて、日本文化研究に特化した AI の開発とその活用事例について検討した。具体的には、生成 AI と日本文化研究デジタルリソースを用いた会話型コンテンツを構築し、それを用いた市民向け展示会を実践した。テクニカルサポートボードとしては、年表データのタイムライン表示、動画・音声アーカイブ ArtTube の本格運用、マイクロコンテンツデータベース改良などを実施した。

(5) ARC リサーチ・スペースに VR や「メタバース」を組み合わせた「ARC リサーチ・ワールド」構築

VR や「メタバース」が、次世代の“知を育む高度教育・研究空間”となることを想定して、いくつかの実証実験を行った。この実証実験では、プラットフォーム、デバイス、体験方法、データの可視化手法などについて検討をすすめるものである。また、2025 年度には VR バーチャルミュージアムは、初期段階として PC モニターとアバターで体験できるものを想定しプロトタイプを制作した。

(6) 研究マネジメント力・研究実践力を養う若手研究者育成、将来の国際連携を視野に入れた若手研究者育成

アーカイブ技術の教育として、若手研究者の海外派遣を行った。実践的 DH 技術の教育として、2025 年度は台湾の国立政治大学との学術シンポジウムにおいて、点群処理、VR、メタバースに関連する講習会を行った。また、若手研究者を中心とする技術支援チーム「テクニカルサポートボード」は、技術開発、研究支援、設備のメンテナンスと更新などを行った。DH 研究の学術面の教育として、国際 ARC セミナーへの参加、紀要「アート・リサーチ」への講演レビューの投稿、国際・国内会議などでの学会発表（台湾の国立政治大学との学術シンポジウム、UC バークレーとの合同コロキウム（第 3 回）、第 15 回知識・芸術・文化情報学研究会など）、拠点イベントでの発表（ARC Days や成果報告会）などを促した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2026 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長	赤間 亮	文学部	教授
運営委員	前田 亮	情報理工学部	教授
	矢野 桂司	文学部	教授
	竹中 悠美	先端総合学術研究科	教授
	THAWONMAS, Ruck	情報理工学部	教授
	西浦 敬信	情報理工学部	教授
	西林 孝浩	文学部	教授
	松葉 涼子	デザイン・アート学部	教授
	李 亮	情報理工学部	教授
	田中 覚	情報理工学部	特任教授
	斎藤 進也	映像学部	准教授
	SEIFMAN, Travis	衣笠総合研究機構	特別招聘研究教員(准教授)
	山内 啓之	衣笠総合研究機構	特別招聘研究教員(准教授)
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	稲葉 光行	政策科学部	教授
	大田 壮一郎	文学部	教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	河角 直美	文学部	教授
	木立 雅朗	文学部	教授
	小寺 未知留	文学部	准教授
	島川 博光	情報理工学部	特任教授
	田中 聡	文学部	教授
	田中 弘美	総合科学技術研究機構	客員研究教員(教授)
	谷 徹也	文学部	准教授
	中村 彰憲	映像学部	教授
	花岡 和聖	文学部	教授
	三須 祐介	文学部	教授
	孟 林	理工学部	教授
	矢野 健一	文学部	教授
	鈴木 桂子	文学研究科	授業担当講師
	八重樫 文	デザイン・アート学部	教授
	福田 一史	映像学部	教授
	中村 大	デザイン・アート学部	教授
	原田史子	情報理工学部	教授
	大島 陽	デザイン・アート学部	教授

学内の若手研究者		美川圭	文学部	教授
	① 専門研究員 研究員 初任研究員	堀池 理生	衣笠総合研究機構	研究員
		平野 理紗子	衣笠総合研究機構	研究員
	② リサーチアシスタント	寶生 紗樹	文学研究科	博士課程後期課程
	③ 大学院生	北岡 沙映	文学研究科	博士課程前期課程
		伊丹 稀星	文学研究科	博士課程前期課程
		井上 雄介	文学研究科	博士課程前期課程
		金子 ひな	文学研究科	博士課程前期課程
		塚本 剛生	文学研究科	博士課程前期課程
		岡崎 壮彦	文学研究科	博士課程前期課程
		岡村 隆洋	文学研究科	博士課程前期課程
		竹澤 快将	文学研究科	博士課程前期課程
		山田 侑哉	映像研究科	修士課程
		リュウ サンゲツ 劉 山月	映像研究科	修士課程
		WANG YUHUA	映像研究科	修士課程
		WU Chaoxian	映像研究科	修士課程
		今中 峻太	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		岩上 瑞希	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		加藤 昂	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		水谷 真紘	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		牟 冠达	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		中野 裕貴	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		野尻 捷月	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		CHEN Tian	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		CHUANG Boyu	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		CUI Shidi	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		LEI Xintong	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		LI Ximing	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		Menghan Zhang	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		PAN Yubo	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		SUN Borui	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		WU Di	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		YANG Junyi	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		Zhang Cailing	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		ZHU Yangyang	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		赤尾 太輔	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		原田 優稀	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		橋田 朋希	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		苗村 公明	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		入口 巧海	情報理工学研究科	博士課程前期課程

		市後 昌義	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		金綱 零	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		松尾 泰志	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		森山 慶一	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		仲程 俊介	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		大石 幸輝	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		岡島 智弥	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		岡部 響希	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		岡本 鉄平	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		澤谷 祐樹	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		孫 胡傑	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		寺尾 優希	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		陳 以航(CHEN Yihang)	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		壺井 立成	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		山崎 拓海	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		CHEN Dihan	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		GU Haoyue	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		GUAN Bateer	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		JIN Huilian	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		LI Rui	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		LIANG Qiwei	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		LIU Yiyang	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		RAHAMAN Syed Aman	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		Shouchen Ye	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		TIAN Yuchen	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		XIA Lingtong	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		Zifan Ye	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		山本 睦月	文学研究科	博士課程後期課程
		田畑 勇也	文学研究科	博士課程後期課程
		MURY Fajar Dewantoro	情報理工学研究科	博士課程後期課程
		閻 彦橋	情報理工学研究科	博士課程後期課程
		KHAN Ibrahim	情報理工学研究科	博士課程後期課程
		Van Thai Nguyen	情報理工学研究科	博士課程後期課程
		Yi Xia	情報理工学研究科	博士課程後期課程
		WU Bohao	情報理工学研究科	博士課程後期課程
		LIU Zipei	情報理工学研究科	博士課程後期課程
		茅 清宇(MAO Qingyu)	情報理工学研究科	博士課程後期課程
		嶋津 麻穂	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		関根 和矢	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	④ 日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)	長谷川 綾音	人間科学研究科 / 日本学術振興会	博士課程後期課程

その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)	鎌田 遼	衣笠総合研究機構	補助研究員
客員協力研究員(87 名)	BINCSIK Monika	メトロポリタン美術館	学芸員
	細井 浩一	ZEN 大学 /コンテンツ産業史アー カイブ研究センター (HARC)	教授/所長
	朝日 智雄	タイコー株式会社	会長
	安宅 望	立命館大学 衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター	博士課程後期課程
	荒木 慎太郎	映像制作者/NPO 法人ミユキ・理 事/花園大学教養教育課程	教員及び学生サポ ート
	飯塚 公藤	近畿大学総合社会学部	教授
	IEZZI Julie Ann	University of Hawai'i at Mānoa, Dept. of Theatre and Dance. Professor ハワイ大学マノア校演 劇・舞踊学部演劇学科 教授	教授
	石上 阿希	京都芸術大学 芸術学部	准教授
	石橋 健一郎	早稲田大学演劇博物館	招聘研究員
	板坂 則子	専修大学	名誉教授
	井上 学	龍谷大学文学部 歴史学科 日本 史学専攻	教授
	岩切 友里子	立命館大学 衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター	客員協力研究員
	岩田 秀行	立命館大学 衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター	客員協力研究員
	VESCO Silvia	Japanese Art History, University of Venice, Italy (ヴェネチア大学日 本美術史)	教授
	埋忠 美沙	お茶の水女子大学	准教授
	王 嘉韻	株式会社ハイシンク創研ソリュー ション事業部	シニアエンジニア
	大西 秀紀	京都市立芸術大学日本伝統音楽 研究センター	客員研究員
	大矢 敦子	京都文化博物館	学芸員
	小倉 拓郎	兵庫教育大学学校教育研究科	講師
	金子 貴昭	京都先端科学大学人文学部歴史 文化学科	准教授
	CABAÑAS Pilar	Art History, Department of Art History, Faculty of Geography and History, Complutense University of Madrid (マドリッド・コンプルテ ンセ大学地理歴史学部美術史学 科)	Associate Professor 教授
	亀田 和子 Madar	ヘブライ大学 アジア学部	客員教授
	加茂 瑞穂	武庫川女子大学文学部歴史文化 学科	講師
	木村 文則	尾道市立大学経済情報学部 准 教授	准教授
	CLARK Timothy Thorburn	British Museum (大英博物館名誉研究員)	Honorary Research Fellow, 名 誉 研 究 員

	倉橋 正恵	近畿大学文芸学部	准教授
	CROSSMAN Lisa	Curatorial Affairs, Mead Art Museum (ミードミュージアム)	学芸員
	KANER Simon Charles	Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures (セインズベリー 日本藝術研究所 業務執行取締役)	Executive Director, 業務執行取締役
	小島 一成	近畿大学産業理工学部情報学科	准教授
	佐古 愛己	佛教大学歴史学部	教授
	佐藤 弘隆	愛知大学地域政策学部	准教授
	鹿内 菜穂	亜細亜大学 経営学部 経営学科	准教授
	菅沼 明正	九州産業大学地域共創学部	共創学部
	杉浦 和子	京都大学	名誉教授
	SCREECH Timothy Benjamin Mark	国際日本文化研究センター	教授
	瀬戸 寿一	駒澤大学文学部地理学科	准教授
	蟬塚 咲衣	小樽市総合博物館	学芸員
	SOLIGNAC Daria	Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures (セインズベリー 日本藝術研究所 Academic Associate アカデミックアソシエイト)	アカデミックアソシエイト
	SOLIMAN Mohamed Ahmed Mohamed	Ministry of Tourism and Antiquities(MoTA) (エジプト観光遺跡省 古代遺物)	上席監察官
	高須 奈都子	大阪商業大学	非常勤講師
	高橋 千晶	同志社大学文学部	嘱託講師
	竹内 千代子	立命館大学	非常勤講師
	田島 等	学校法人上田学園	理事
	館野 まりみ	早稲田大学文学部	非常勤講師
	谷 昇	立命館大学 衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター	客員協力研究員
	塚本 章宏	佛教大学 歴史学部	教授
	津田 光弘	立命館大学 衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター	客員協力研究員
	土田 勝	日本電信電話株式会社 コミュニケーション科学基礎研究所	研究主任
	常木 佳奈	久留米工業高等専門学校 一般科目(文科系)	准教授
	DAVIS Julie Nelson	University of Pennsylvania, History of Art ペンシルバニア大学	教授
	TINIOS Ellis	School of History, University of Leeds, UK (イギリスリーズ大学)	Honorary Lecturer, 名誉講師
	DEWI Fitriana Puspita	Humanities Laboratory Unit/Univercitas Brawijay (ブラウィジャヤ大学)	Lecture 講師 / 人文科学ユニット長

	東野 陸	立命館大学 衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター	客員協力研究員
	永塚 憲治	公益財団法人研医会	研究員
	中村 恵美	早稲田大学演劇博物館	招聘研究員
	西井 将哉	伯樂舎	代表/演出家・クリエイティブディレクター
	橋本 真佐子	沼津工業高専 教養科 助教	教授
	畑 恵里子	静岡英和学院大学人間社会学部 人間社会学科	教授
	花崎 あゆみ	公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター 事業第一課	課長補佐
	HAFT Alfred	Department of Asia, BRITISH MUSEUM, UK (大英博物館アジア部門)	学芸員
	潘 姣	北京科技大学	講師
	BIANCHI Alessandro	World Collections at the Cambridge University Library ケンブリッジ大学図書館	Head 部門長
	BIERNATZKI Anna-Luise Margarete	Institute of Art History, Free University of Berlin ベルリン自由大学美術史研究所	Associate Researcher 客員研究員
	日高 杏子	女子美術大学芸術学部・大学院 美術研究科	特任教授
	廣瀬 千紗子	同志社女子大学	名誉教授
	Gergana PETKOVA	Sofia University “St. Kliment Ohridski”	教授 Dean of the Faculty of Classical and Modern Philology
	BERGMANN Annegret	Freie Universität Berlin, Institute of Art History (ベルリン自由大学 美術史研究所 東アジア美術)	客員教授
	PELLECCHIA Diego	京都産業大学文化学部	准教授
	細井 尚子	立教大学異文化コミュニケーション学部	特別専任教授
	本多 健一	立命館大学 衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター	客員協力研究員
	前崎 信也	京都女子大学 家政学部生活造形学科	教授
	MCCORMICK Kelly Midori	University of British Columbia (ブリティッシュ・コロンビア大学)	Assistant Professor 助教授
	松岡 恵悟	立命館大学文学部・龍谷大学・武庫川女子大学・京都女子大学・神戸大学	非常勤講師
	丸川 雄三	国立民族学博物館人類基礎理論研究部	准教授
	MARQUET Christophe	フランス国立極東学院 教授 同学院京都支部	支部代表
	MARCEAU Lawrence Edward	立命館大学 衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター	客員協力研究員
	MIKES Marek	Department of Japanese Studies, Masaryk University (チェコ・マサリク大学日本研究学科)	Assistant Professor 助教授

	宮田 悠史	学校法人日本財団ドワンゴ学園 コンテンツ産業史アーカイブ研究 センター	研究員
	MUELLER Doreen	Leiden University, Institute for Area Studies, Japanstudies (ライデン大学地域研究研究所 日本研究)	Assistant Professor 講師
	MORO Daniela	University of Turin (トリノ大学 准教授)	Associate Professor 教授
	森 慈尋	臨済宗永源寺派大本山永源寺 永源寺派	教学部員
	矢野 明子	大英博物館アジア部 三菱商事 (日本コレクション)	キュレーター
	山路 正憲	デトロイト トーマツ コンサルティ ング合同会社	社員
	山本 真紗子	甲南大学 文学部	非常勤講師
	余語 琢磨	早稲田大学・人間科学学術院	准教授
	RAMBELLI Fabio	University of California, Santa Barbara (カリフォルニア大学サン タバーバラ校 教授)	教授
	李 威特	重慶工商大学情報工学部人工知 能学科	専任講師
その他の学外者(98名)	鈴木 秀人	ESRI ジャパン株式会社 事業開 発統括	取締役統括部長
	仙海 義之	逸翁美術館・小林一三記念館・池 田文庫 公益財団法人 阪急文化財団	上席学芸顧問
	高野 明彦	国立情報学研究所	名誉教授
	Hans Bjarne Thomsen	Emeritus Professor, University of Zurich チューリッヒ大学	名誉教授
	並木 誠士	京都工芸繊維大学/ 美術工芸資料館	特定教授/館長
	福島 幸宏	慶應義塾大学 文学部 図書館・ 情報学専攻	准教授
	Toshie Marra	University of California, Berkeley	Librarian for Japanese Collection
	渡邊 英徳	東京大学大学院 情報学環	教授
	高橋 晴子	国立民族学博物館 超域フィー ルド科学研究部	外来研究員
	Ewa Machotka	Institute of Art History, University of Zurich	Professor and Chair of East Asian Art History
	山田 奨治	国際日本文化研究センター 研 究部	教授
	杉本 竜	桑名市博物館	
	神楽岡 幼子	愛媛大学法文学部	教授
	森岡 秀人	(公財)古代学協会	客員研究員
	Wanda Listiani	Institut Seni Budaya Indonesia Bandung	
	長谷 憲一郎	駿河台大学	教授
	瀧川 元気	株式会社 Studio-884.Pro	代表取締役

	荻田 みどり	舞鶴工業高等専門学校	准教授
	Eriko Tomizawa-Kay	University of East Anglia, University of Michigan	Lecturer/Toyota Visiting Professor,
	松田 法子	京都府立大学	准教授
	佐藤 泰裕	東京大学大学院経済学研究科	教授
	太田 米男	一般社団法人京都映画芸術文化 研究所	代表理事
	グッド 長橋 広行	ピッツバーグ大学図書館・	日本・コリア研究司 書
	高野 光平	茨城大学人文社会科学部	教授
	竹内 幸絵	同志社大学 社会学部	教授
	黒石 陽子	東京学芸大学	教授
	岩井 眞實	名城大学外国語学部教授	教授
	樋口 摩彌	同志社大学・嘱託講師	講師
	山田 雅美	Victoria and Albert Museum,	Curator
	飯塚 浩太郎	東京大学空間情報科学研究セン ター	助教
	武藤 祥子	公益財団法人 松竹大谷図書館	主任司書
	Vivien Jiaqian Zhu	Stanford University, PhD Candidate	
	西川 完途	京都大学大学院地球環境学堂	教授
	Aleksandra KOBILJSKI	French National Research Center (CNRS)	
	Stephanie SANTACHI	University of Zurich,	Postdoctoral Fellow at the Chair in East Asian Art History
	Cecile LALY	Kyoto Seika University,	Specially Appointed Lecturer
	Willy Vande Walle	European Association of Japanese Resource Specialists	Chairman
	瀬川 結美	東京学芸大学附属図書館	
	鈴木 紗江子	ブリティッシュコロンビア大学	・博士後期課程学 生
	久保山 哲二	学習院大学 学習院大学 計算機 センター&人文科学研究科 アー カイブズ学専攻	教授
	角田 牧子	ノッティンガムトレント大学、イギリ ス	博士号候補
	山下 貴久子	Brown University	Associate Professor
	Jamie Newhand	ワシントン大学セントルイス 東ア ジア図書館	
	米倉 迪夫	東京文化財研究所	名誉研究員
	新名 佐知子	秩父宮記念スポーツ博物館	学芸員
	高橋 京子	国立音楽大学	
	南 清恵	ホノルル美術館	リサーチアソシエイ ト

	中村 充孝	ハワイ大学マノア校図書館 University of Hawai'i at Mānoa Library	
	坂本 智子	京都先端科学大学附属高等学校 国語科	芸術科書道非常勤 講師
	Eugenia Bogdanova- Kummer	Sainsbury Institute for the Study of Japanese arts	Lecturer in Japanese arts
	Daan Kok	世界博物館	学芸員
	山田 博隆	美術書出版株式会社	社長
	John McCormick	Swinburne University - Centre for Transformative Media Technologies	Associate Professor of Interactive Media - Acting Director
	FOXWELL, Chelsea	University of Chicago Center for East Asian Studies	Professor
	中野 宗城	野路町内会	会長
	芳村 弘道	白川静記念東洋文字文化研究所 所長	所長
	Aragorn Quinn	UW-Milwaukee	Assistant professor
	Yukio Lippit	Harvard University	Professor
	Joshua S. Mostow	Department of Asian Studies, The University of British Columbia	Professor
	Xie Kai	Kenyon College	Assistant professor of Japanese
	Maren Ehlers	University of North Carolina /Hitotsubashi University	
	マルラ 俊江	カリフォルニア大学バークレー校	日本資料司書
	大島 桂史	大阪府立中之島図書館	
	伊元 俊幸	尼崎市立歴史博物館	館長
	恒次 知美	専修大学図書課	課長
	吉田 修	築地双六館	館長
	吉海 直人	同志社女子大学	名誉教授
	湯浅 淑子	たばこと塩の博物館	主任学芸員
	日野原 健司	太田記念美術館	主席学芸員
	Todd Grappone	UCLA 図書館	アソシエート・ユニ バーシティ・ライブ ラリアン
	Paul Berry	関西外国語大学	名誉教授
	尾関 信行	江西寺	
	Vyara NIKOLOVA	Head of Japanese Studies Department Sofia University “St.Kliment Ohridski”	Associate Professor
	Milena SAHAKYAN	Sofia University “St.Kliment Ohridski”	PhD student at Japanese Studies
	Boyka Tsigova	Sofia University “St.Kliment Ohridski”	Professor
	Kristina Ivanova	Sofia University “St.Kliment Ohridski”	PhD student at Japanese Studies
	Sharon Liu	Mead Art Museum	Curatorial Assistant

	Felicity Stone-Richards	UCSB	Ph.D. Candidate
	Matthias HAYEK	Ecole Pratique des Hautes Etudes (Paris, France)	Professor
	Chiara Luna GHIDINI	Università di Napoli “ L ’ Orientale” (Italy)	Associate Professor
	Laura SNELL	UC Santa Barbara	graduate student
	Mona Gamal Eldin Ibrahim	Egypt-Japan University of Science and Technology (E-JUST)	Professor -Dean of EECE
	Hanoch Roniger	Hebrew University of Jerusalem	Librarian, Asian Studies
	Yael Sher	Hebrew University of Jerusalem	Graduate Student, Asian Studies
	Quintana Scherer	Kanazawa University	Assistant Professor
	Federica Cavazzuti	University of Turin	PhD Candidate
	石川直章	小樽市総合博物館	館長
	手塚 薫	北海学園大学人文学部	教授
	谷端 郷	北海学園大学人文学部	講師
	嶋崎 聡子	UCLA	准教授
	平山 昇	神奈川大学国際日本学部	准教授
	嶋 理人	熊本学園大学経済学部	准教授
	鈴木 勇一郎	川崎市市民ミュージアム	学芸部門学芸員
	草野 真樹	九州産業大学商学部	准教授
	土井 徹平	北九州市立大学経済学部	教授
	渡部 邦昭	九州歴史資料館	学芸員
	林 和樹	京都大学文学部/大谷大学文学部	非常勤講師
	小野 浩	西南学院大学経済学部	教授
研究所構成員 計 300 名 (うち学内の若手研究者 計 79 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください(2026 年 3 月 31 日時点)。また、書式 B の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	赤間 亮	歌舞伎評判記集成 第三期 第九巻	共著	2026 年 2 月	和泉書院	編集：役者評判記刊行会, 赤間亮, 新井恵, 池山晃, 神楽岡幼子, 金子貴昭, 倉橋正恵, 黒石陽子, 齊藤千恵, 佐藤かつら, 田草川みずき, 野口隆, 水田かや乃, 光延真哉	全 504 ページ
2	加藤 政洋	占領下の痕跡 1950 年代	共著	2026 年 1 月	琥珀書房(鹿ヶ谷叢書 008)	河角直美, 前田一	第 1～6 章、第 8

		沖縄の社会と景観	(編 著)			馬, 恩河尚	章, 終章担当
3	谷 徹也	中世武家拠点の研究	共著	2025 年 5 月	(「豊臣政権による京都の 拠点化—『太閤の糸』を手 がかりに—」)	仁木宏編	”191-213 頁
4	谷 徹也	『豊臣秀吉の城』	共著	2025 年 12 月	宮帯出版社	中井均編	”264-267 頁
5	谷 徹也	時慶記	共著	2026 年 2 月	”臨川書店『時慶記』第 8 巻 (寛永 6 年・寛永 9 年)”	”時慶記研究会(翻 刻・校訂)〔本巻担 当: 藤井譲治・岩崎 奈緒子・大原誠・佐 竹朋子・谷徹也〕”	1-307 頁
6	中村 大	第 11 章 過去と未来 レジ リエンスからの読み解き	共著	2026 年 3 月	コンセント、デザイン学の 再構築に挑む」 [1]	中村大, 小田裕和	224-245 頁
7	中村 彰憲	中国ゲーム産業の現状	共著	2025 年 8 月	角川アスキー総合研究所/ ファミ通ゲーム白書 2025	高橋玲央奈、 北阪 幹生	328-333 頁、全 体構成、各市場 セグメントの 状況、総論
8	中村 彰憲	2024 年 新興国ゲーム産 業の現況	単著	2025 年 8 月	角川アスキー総合研究所/ ファミ通ゲーム白書 2025		336-345 頁、全 体統括、産業デ ータ、対象国の 選定
9	西浦 敬信	広報・電子化委員会の現 在地 2025 一会員サービ スの向上と会勢拡大を目 指してー	共著	2025 年 5 月	一般社団法人 日本音響学 会/『日本音響学会誌』81 巻 5 号	高田 正幸	365-369 頁
10	西浦 敬信	研究会へ行こう! 応用音 響研究会 (EA)	単著	2025 年 11 月	”電子情報通信学会 基礎・ 境 界 ソ サ イ エ テ ィ Fundamentals Review	19,2 ”	
11	福田 一史	クリティカル・ワード ゲ ームスタディーズ 遊びか ら文化と社会を考える	共著	2025 年 6 月	フィルムアート社	吉田寛, 井上明人, 松永伸司, マーティ ン・ロート	第 2 部 1 「ア ーカイブ」
12	福田 一史	デジタルアーカイブ・ベ ーシックス 「メタデー タ」のパーспекティブ	共著	2025 年 6 月	勉誠社 (「デジタルアーカ イブ・ベーシックス」シリ ーズ)	池内有為, 木村麻衣 子	コラム 3 アー カイブ機関に お け る Wikidata の活 用と展望
13	福田 一史	デジタルアーカイブ入門: つかう・つくる・支える	共著	2025 年 5 月	勉誠社 (「デジタルアーカ イブ・ベーシックス」シリ ーズ)	柳与志夫, 渡邊英徳	コラム 業務委 託の手順 福田 一史, 7-4 デジ タルアーカイ ブシステムブ ラットフォー ム—デジタル アーカイブ を公開するた めのアプリケ ーションとサ ービス
14	矢野 桂司	古地図オンラインポータ ルサイト (歴史地理学会 編『歴史地理学事典』)	共著 (分担 執筆)	2025 年 12 月	丸善出版	矢野 桂司	
15	倉橋 正恵	歌舞伎の東西 —上方と江 戸の絵入り出版物—	共著	2026 年 3 月	花鳥社	青山学院大学文学 部日本文学科 ア ンドリュー・ガース トル、北川博子、佐 藤かつら、神楽岡幼 子、韓京子	
16	佐古 愛己	『鬼系の病因論—疾病・ 疫病観の起源を探る』	共著	2026 年 3 月	臨川書店	大形徹・山本優紀 子・池内早紀子編	
17	菅沼 明正	『鉄道と社寺参詣』	共著	2025 年 9 月	晃洋書房	井田 泰人	
18	瀬戸 寿一	日本の地理学の百年	共著	2025 年 5 月	古今書院	日本地理学会百年 史編集委員会編 松原宏 小口高	

						後藤秀昭 島津俊之 瀬戸寿一 中澤高志 長谷川直子 羽田麻美 松山 洋 目代邦康 山本充 若林芳樹	
19	瀬戸 寿一	経済・政策分析のためのGIS入門2 二訂版：空間統計ツールと高精度地理空間情報	共著	2025 年 4 月	古今書院	河端瑞貴・安田昌平・今木洋大・薄井宏行・桐村喬	
20	常木 佳奈	オンライン版『朝日コレクション 明治・大正口絵集成』 口絵の世界と鱈崎英朋	共著	2025 年 5 月	文生書院	日野原健司、出口智之、朝日智雄、David Bull、常木佳奈、山田奈々子、中澤麻衣、荒井真理亜、富永真樹、松本品子、河内えり子	
21	永塚 憲治	『医方類聚』傷寒門	共著	2025 年 12 月	研医会図書館	松岡尚則, 永塚憲治, 安部郁子編集	
22	畑 恵里子	島菌進・佐藤憲昭・高見寛孝編『民俗宗教と仏教文化ー佐々木宏幹先生追悼論文集ー』	共著 (分担執筆)	2026 年 2 月	仏教企画	畑 恵里子	
23	畑 恵里子	高橋亨編『源氏物語の遠近法と表現史』	共著 (編著書の分担執筆)	2025 年 5 月	翰林書房	畑 恵里子	
24	細井 尚子	笑いと涙が織りなす世界 東アジア大衆の上演文化の複数史観／笑涙交織：東亞大衆 演劇的複数史観』 論文集	共著	2026 年 3 月	立教大学アジア地域研究所	黄建業, 後藤隆基, 海震, 徐亜湘, 洪榮林, 正昭, 宮信明, 輪島裕介, 郁, 林子竝, 羅仕龍, 尚子, 謝淳清, 王樂水	
25	宮田 悠史	デジタルアーカイブ入門：つかう・つくる・支える	共著 (分担執筆)	2025 年 6 月	勉誠社	柳 志夫渡邊, 英徳	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	赤間 亮	『許多脚色帖』とチリメン絵	単著	2025 年 11 月	勉誠社、書物学(32)	赤間亮	10-17	なし
2	赤間 亮	マルチモーダル型データベースによる複雑化した収蔵品管理情報の統合手法ー秩父宮記念スポーツ博物館を事例に	共著	2025 年 6 月	アート・ドキュメンテーション学会、アート・ドキュメンテーション(33)	赤間亮、村上佳奈、新名佐知子	29-34	あり
3	赤間 亮	データ駆動のためのデジタルアーカイブー立命館大学アート・リサーチセンターの DA 事業	単著	2026 年 1 月	専門図書館、専門図書館(324)		16-24	あり
4	荒木 慎太郎	デジタルネイティブはどのような教育的な映像を視聴したのかについて：視聴形態の整理と教育現場を志す学生への調査から	共著	2025 年 9 月	情報処理学会関西支部、情報処理学会関西支部支部大会講演論文集 2025 年度	荒木 慎太郎; 田原昌子		
5	飯塚 公藤	大学における GIS 教育の実践：近畿大学総合	単著	2026 年 3 月	日本地図センター、地図中心(642), 33-35	飯塚 公藤		

		社会学部の事例						
6	石上 阿希	「触れる」春画・艶本 —仕掛絵・おもちゃ絵	単著	2026 年 2 月	ひつじ書房、『五感で読み解く近 世文芸』	丹羽みさと		
7	石橋 健一郎	「文化財の保存」の観 点から	単著	2025 年 4 月	楽劇学会、『楽劇学』第 32 号	石橋 健一郎		
8	板坂 則子	論文／『浪千鳥』の成 立 北斎『浪千鳥』『会 本佐勢毛が露』『富久寿 楚字』考	単著	2026 年 1 月	国際浮世絵学会、浮世絵芸術 = Ukiyo-e Art: 国際浮世絵学会会 誌 191 号	板坂 則子		
9	稲葉 光行	Which parts of speech are more susceptible to topic variations: a case of Japanese authorship analysis	共著	2025 年 5 月	、Behaviormetrika52	Wataru Zaitzu, Mingzhe Jin, Shunichi Ishihara, Satoru Tsuge & Mitsuyuki Inaba	732	あ り
10	稲葉 光行	『融合のアート〜教 え、学び、繋げる混合 研究法』—第 10 回日本 混合研究法学会年次大 会報告—	共著	2025 年 10 月	、混合研究法 略称： AMMR4(2)	稲葉 光行, 大河原 知嘉子, 抱井 尚子	6-425	な し
11	稲葉 光行	Stylometry can reveal artificial intelligence authorship, but humans struggle: A comparison of human and seven large language models in Japanese	共著	2025 年 10 月	、PLOS ONE20(10)	Wataru Zaitzu 1, Mingzhe Jin, Shunichi Ishihara, Satoru Tsuge & Mitsuyuki Inaba	0335369	あ り
12	大田 壮一郎	2025 年度歴史学研究会 大会報告批判（中世史 部会 相馬和将報告）	単著	2025 年 12 月	、『歴史学研究』（1067）	大田壮一郎	42-43	な し
13	大田 壮一郎	家門と門跡—地蔵院の 場合—	単著	2026 年 2 月	勉誠社、『中・近世門跡論の可能 性』	大田壮一郎	82-105	な し
14	小倉 拓郎	国立大学の教員養成課 程における地理学関連 科目カリキュラムの現 状と教育支援の在り方	共著	2025 年 12 月	公益社団法人 日本地理学会、E- journal GEO2025 年 20 巻 2 号	小倉 拓郎; 山内 啓之; 濱野 清; 吉 水 裕也; 小口 高	373-382	
15	小倉 拓郎	Evaluation of medieval land transformation for the construction of hilltop castles based on topographic analysis of LiDAR DEMs	共著	2026 年 3 月	Taylor & Francis、Physical Geography10.1080/02723646.2 026.26	Risa Terui, Tsuyoshi Hattanji, Taiyo Kajita, Takuro Ogura, Masami Inomata		
16	小倉 拓郎	Coast uplifted by nearby shore-parallel active submarine faults during the 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula earthquake	共著	2026 年 1 月	Geomorphology、Elsevier BV110069	Hideaki Goto, Tomoru Yamanaka, Tomohiro Makita, Yoshiya Iwasa, Takuro Ogura, Kyoko Kagohara, Yasuhiro Kumahara, Yasuhiro Suzuki, Nobuhisa Matta, Tatsuto Aoki ...		
17	小倉 拓郎	令和 6 年度発行の小学 校教科書における防災 学習内容の分析—教科 横断型防災学習の実態 と課題—	共著	2025 年 12 月	防災教育学研究、『防災教育学研 究』巻 6 号 1 ページ	酒井藤大, 小倉拓 郎, 小林勇介	39-50	
18	小倉 拓郎	High-definition topographic archiving and educational applications in regions		2025 年 8 月	Fuji Technology Press、Journal of Disaster Research20 巻 4 号	Takuro Ogura, Hiroyuki Yamauchi, Tatsuto Aoki,	401-409	

		affected by the 2024 Noto Peninsula Earthquake				Nobuhisa Matta, Kotaro Iizuka, Yoshiya Iwasa, Takayuki Takahashi, Kiyomi Hayashi, Tsuyoshi Hattanji, Takashi Oguch,		
19	小倉 拓郎	登山道維持管理のための地形模型の作成	共著	2025 年 6 月	日本地形学連合、地形 46 巻 1 号	小林勇介, 小倉拓郎	35-49	
20	小倉 拓郎	Identification of traditional flood control facilities concealed in the riparian forest: a case study of the Echi River, central Japan		2025 年 6 月	Springer Nature、Progress in Earth and Planetary Science12 巻 1 号	Takuro Ogura, Kazuyuki Shimamoto, Toshiaki Mizuno, Daisuke Katayama, Hiroyuki Yamauchi, Tsuyoshi Hattanj	記事番号 41	
21	小倉 拓郎	官学連携による小学校社会科デジタル学習材・評価問題の開発と授業実践 ―東条川疏水を中心とした地域学習を事例として―	共著	2025 年 5 月	兵庫地理学協会、兵庫地理 70 号	宮苑聖輝, 吉川修史, 内藤翔太, 小倉蒼太郎, 木村綱輔, 吉水裕也, 濱野 清, 小倉拓郎	17-34	
22	金子 貴昭	『俳諧十家類題集』と類題句集の類板問題	単著	2025 年 7 月	雅俗の会、雅俗	金子 貴昭	4-16	
23	河角 直美	歴史都市京都のデジタルアーカイブー地図と写真のデータベース構築を例としてー	共著	2025 年 11 月	一般社団法人 情報科学技術協会、情報の科学と技術 75(11)	河角直美, 矢野桂司, 佐藤弘隆, 高橋彰, 山本峻平	560-565	なし
24	小島 一成	Multi-site Linked MOCAP Streaming System and Applications	単著	2025 年 4 月	Springer Nature Switzerland AG、Models and Methods for Systems Engineering	小島 一成	325–334	
25	斎藤 進也	構成されるものとしてのゲーム体験：遊びのインクルーシブデザインを考えるための理論的視座の検討	共著	2026 年 3 月	立命館大学ゲーム研究センター、Replaying Japan8	斎藤進也、長谷川綾音	15	あり
26	斎藤 進也	デジタルゲームの開発技法を活用した学術仮想展示の構築 ―「デジタル・パブリックヒューマニティーズ」の実現に向けて	単著	2026 年 3 月	立命館大学アート・リサーチセンター、アート・リサーチ 26(3)	斎藤進也	03-108	あり
27	佐藤 弘隆	観光地化する歴史的都市空間における祭礼継承 ―犬山城下町と犬山祭を事例に―	単著	2026 年 3 月	愛知大学中部地方産業研究所、愛知大学中部地方産業研究所プロジェクト研究報告書	佐藤 弘隆	88–125	
28	鹿内 菜穂	Vestibular Dysfunction and the Leftward Deviation in the New Line Bisection Task Using Three-Dimensionally Transformed Rectangles	共著	2025 年 7 月	MDPI、Audiology ResearchVolume 15	Teru Kamogashira, Shinnosuke Asakura, Hideaki Funayama, Kenji Ito, Noriaki Sunaga, Nao Shikanai, Fumihiko Itagaki, Toshihata Kataoka, Shizuka Shoji, Megumi Koizumi ...	Article 86	

29	島川 博光	Comprehension Faults Through Word Embedding and Multimodal Analysis	共著	2025 年 12 月	ASTESJ Publications、Advances in Science, Technology and Engineering Systems Journal10(6)	Kento Yasuda, Hiromitsu Shimakawa, and Fumiko Harada	42-54	あり
30	島川 博光	LLM Technologies Complex to Reduce Turnover through Improving Workplace Communication	共著	2026 年 1 月	Technium Science、Technium Social Sciences Journal80(1)	Koyo Ueno, Hiromitsu Shimakawa, and Fumiko Harada	50-161	あり
31	島川 博光	Construction of AI Learning Support Model in Response to Conversation Content and Emotional Changes by EQ	共著	2026 年 1 月	Technium Science、Technium Social Sciences Journal80(1)	Kento Yasuda, Hiromitsu Shimakawa, and Fumiko Harada	,35-55	あり
32	島川 博光	Quadruplet Alignment Loss Function for Representing the Stages of Behavior Change	共著	2026 年 2 月	Technium Science、Technium Social Sciences Journal80(2)	Ryo Kuramoto, and Hiromitsu Shimakawa	56-71	あり
33	鈴木 桂子	きものが魅せた異文化交流―日蘭貿易を中心に	単著	2026 年 1 月	京都市産業技術研究所、京染・精練染色研究会、京染と精練染色 76(2)	鈴木 桂子	25-32	
34	鈴木 桂子	身装デジタルアーカイブで解説する衣服文化	共著	2025 年 8 月	NCC（北米日本研究資料調整協議会）、日本研究のスポットライト	高橋晴子、鈴木桂子		
35	瀬戸 寿一	技術・人・場の相互作用によるシビックテック活動の持続性要因の分析―Code for Kakegawa を事例に―	共著	2025 年 11 月	一般社団法人 日本建築学会、日本建築学会技術報告集 32(80)	須藤 喜己, 高橋 奎介, 伊藤 香織, 高柳 誠也, 瀬戸 寿一	410-415	
36	瀬戸 寿一	Project PLATEAU における 3D 都市モデルデータ整備状況と活用事例の分析	単著	2025 年 10 月	一般財団法人 日本不動産研究所、不動産研究 67(4)	瀬戸寿一	10-19	
37	瀬戸 寿一	Analysis of Building 3D Attribute Coverage and Spatial Disparity of Editing Activities in OpenStreetMap	単著	2025 年 9 月	Copernicus Publications、The International Archives of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information SciencesVolume XLVIII-4/W15-2025	瀬戸 寿一	149-155	
38	瀬戸 寿一	『地理情報科学と技術の知識体系』改訂版の内容分析から探る現代の地図・GIS 教育ニーズ	単著	2025 年 6 月	日本地図学会、地図 63(2)	瀬戸 寿一	53-64	
39	高橋 千晶	祇園祭写真にみる民俗学的まなざしとアマチュア写真の交錯：民俗学者竹田聰洲と「長江家旧蔵写真資料」を中心に	単著	2026 年 3 月	同志社大学国際教養教育院、同志社大学日本語・日本文化研究 [cir.nii.ac.jp], [ndlsearch.ndl.go.jp]22 号	高橋 千晶	25-41	
40	竹中 悠美	浮世絵の中の窓 ―「ARC 浮世絵・日本絵画ポータルデータベース」を活用したモチーフ研究の試み	共著	2026 年 3 月	立命館大学アート・リサーチセンター、アート・リサーチ 26(3)	竹中悠美	11-114	なし
41	田中 覚	A VR Learning Support System for Comparative Visualization of Japanese Traditional Dance Movements	共著	2025 年 4 月	Japan Society for Simulation Technology、Journal of Advanced Simulation in Science and Engineering 略 称：JASSE12(1)	Daiki Yokoyama, Liang Li, Satoshi Takatori, Kyoko Hasegawa, Nao Shikanai, Satoshi Tanaka	80-99	あり
42	田中 覚	Visualization of 3D scanned data to	共著	2025 年 4 月	Springer、Journal of Visualization28(4)	Satoko Murakami, Kyoko	07-818	あり

		support sandplay therapy				Hasegawa, Satoshi Takatori, Motoaki Adachi, Liang Li, Chieko Kato, Satoshi Tanaka		
43	田中 寛	Transparent visualization with dynamic shading for 3D scanned point clouds of cultural heritage objects	共著	2025 年 6 月	IEEE、Proceedings of the 2025 IEEE 18th Pacific Visualization Conference	Hatsuki Nojiri, Satoshi Takatori, Kyoko Hasegawa, Liang Li, R. Michael Feener, Keiji Yano, Satoshi Tanaka	375-380	あり
44	田中 寛	Enhanced 3D Monocular Reconstruction of Relief-Type Cultural Heritage via an Edge-Matching Module	共著	2025 年 9 月	ACM (Association for Computing Machinery)、Journal on Computing and Cultural HeritageACM Online	Jiao Pan, Xuyang Gu, Liang Li, Weite Li, Yuchen Wang, Ning Bo, Hiroshi Yamaguchi, Kyoko Hasegawa, Fadjar Ibnu Thufail, Brahmantara, Yao Chao, Xiaojuan Ban, Satoshi Tanaka		あり
45	田中 寛	Statistical definition and visualization of vortices for large-scale 3D ocean simulation	共著	2025 年 9 月	Springer Nature、Journal of Visualization28(6)	Satoru Arita, Soya Kamisaka, Satoshi Nakada, Shintaro Kawahara, Hideo Miyachi, Kyoko Hasegawa, Satoshi Takatori, Liang Li, Satoshi Tanaka		あり
46	田中 寛	Multiscale voxel feature fusion network for large scale noisy point cloud completion in cultural heritage restoration	共著	2026 年 2 月	Springer Nature、npj Heritage Science 14(93)	Weite Li, Jiao Pan, Kyoko Hasegawa, Liang Li, Satoshi Tanaka,		あり
47	谷 徹也	史料紹介 豊臣氏三奉行連署条々	単著	2025 年 5 月	大阪公立大学日本史学会、大阪公大日本史(28)	谷 徹也	7-153	なし
48	谷 徹也	史料紹介 木下文庫所蔵池田伊予文書	共著	2025 年 10 月	織豊期研究会、織豊期研究(27)	池田伊予文書を読む会 (石畑匡基・谷徹也・西尾大樹・加藤孝弥・木村俊哉)	3-134	あり
49	谷 徹也	蔚山城の戦いの経緯とその影響	単著	2025 年 10 月	朝鮮史研究会、朝鮮史研究会論文集(63)	谷 徹也	3-127	あり
50	谷 徹也	秀吉死後の政局と「五奉行」	単著	2026 年 1 月	立命館大学人文学会、立命館文学(696)	谷 徹也	01-18	なし
51	谷 徹也	稻荷社領の近世化	単著	2026 年 3 月	伏見稻荷大社、朱(69)	谷 徹也	2-121	なし
52	土田 勝	照明光スペクトルの制御により選択した物体色の見え方を変化させる照明システムの開発	共著	2026 年 1 月	一般社団法人 電子情報通信学会、IEICE Fundamentals Review19(3)	山口 真理子; 土田 勝; 松元 崇裕	53-159	
53	永塚 憲治	日用類書と『宝暦・明和頃刊行の欠題艶本』との関係について：特に春葉を中心に	単著	2025 年 12 月	日本医史学会関西支部、医譚 = History of medicine : journal of the Kansai Branch of the Japan Society of Medical History / 日本医史学会関西支部 編(122)	永塚 憲治	-11738	

54	中村 大	人口と儀礼の考古学からデザイン・アートの考古学へ	単著	2026 年 3 月	環太平洋文明研究センター、環太平洋文明研究(第 10)	中村大		なし
55	西浦 敬信	Improvement of Sound Quality in Visual Microphone by Manipulation of Focused Area	共著	2025 年 4 月	、APSIPA Transactions on Signal and Information Processing14(1, e5)	Hayata Nakano, Yuting Geng, Kenta Iwai, and Takanobu Nishiura		あり
56	西浦 敬信	Neural and psychological responses to urgency in speech signals	共著	2026 年 1 月	Emerald Publishing、Applied Acoustics	Yoshiharu Soeta, Satoshi Miyata, and Takanobu Nishiura	241	あり
57	西浦 敬信	Acoustic Metadata Design on Object-Based Audio Using Estimated 3D-Position from Visual Image Toward Depth-Directional Sound Image Localization	共著	2026 年 1 月	MDPI AG、Acoustics8	Subaru Kato, Masato Nakayama, Takanobu Nishiura, and Yoshiharu Soeta		あり
58	畑 恵里子	性愛をこめて「母」を「見る」継子ー作 寺山修司・岸田理生 演出 蜷川幸雄「身毒丸」の「黒髪」の「恋」ー	単著	2026 年 3 月	物語研究会、『物語研究』(26)	畑 恵里子	4-237	
59	福田 一史	ゲームマニュアルにおける没入的記述の構造化分析ー大規模言語モデルを用いた疑似ラベリング手法の適用ー	単著	2025 年 9 月	デジタルアーカイブ学会、デジタルアーカイブ学会誌 9	福田一史	198-201	なし
60	福田 一史	ゲームマニュアルにおける没入的記述の構造化分析ー大規模言語モデルを用いた自動セクション分類ー	単著	2025 年 12 月	一般社団法人 情報処理学会、人文科学とコンピュータシンポジウム 2025 論文集 2025	福田一史	7-314	あり
61	福田 一史	ゲームエンジンとオントロロジーを用いた仮想展示空間の構築	共著	2025 年 12 月	一般社団法人 情報処理学会、人文科学とコンピュータシンポジウム 2025 論文集 2025	山田侑哉,福田一史,斎藤進也	7-202	あり
62	福田 一史	LLM を用いた自動生成メタデータの精度評価: ボードゲームのパッケージ画像 OCR と固有表現抽出から	単著	2026 年 2 月	デジタルアーカイブ学会、デジタルアーカイブ学会誌 9(s2)	福田一史	8-s201	なし
63	細井 浩一	デジタルゲームの物理的保存に関する保存科学的アプローチ:『介入レベル階層モデル』を用いた総合的戦略に向けて	単著	2025 年 11 月	立命館大学アート・リサーチセンター、アート・リサーチ 26	細井 浩一		
64	細井 尚子	興行財における大衆性と芸術性の相剋と相生: 新派と文学座の『華岡青洲の妻』を例に	単著	2026 年 3 月	立教大学アジア地域研究所、笑いと涙が織りなす世界: 東アジア大衆的上演文化の複数史観: 論文集	細井 尚子	203-232	
65	細井 尚子	“打破常规”与“走样”: 以歌舞伎为例考察传统戏剧的现代化(「型破り」と「型くずれ」 歌舞伎を例に伝統演劇の現代化に関する考察)	単著	2025 年 6 月	、《戏曲研究》(『戯曲研究』(138)	細井 尚子	82-98	
66	前田 亮	NERGL: Named Entity Recognition and Grounding with Large Language Models for Ukiyo-E Artworks	共著	2025 年 9 月	Springer、Proceedings of The 29th International Conference on Theory and Practice of Digital Libraries (TPDL 2025)46094	Bohao Wu and Akira Maeda	03-13	あり

67	前田 亮	SinoSarcasmClassifier: A Multi-View Model for Sarcasm Detection in Chinese Social Media with Emoji Mapping	共著	2025 年 12 月	Springer、Proceedings of The 27th International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL 2025)	Zipei Liu and Akira Maeda	78-86	あり
68	孟 林	Automatic Pruning Rate Adjustment for Dynamic Token Reduction in Vision Transformer	共著	2025 年 4 月	SPRINGER、Applied Intelligence55(342)	Ryuto ISHIBASHI, and Lin MENG	01-15	あり
69	孟 林	A Multi-scale Information Fusion Framework with Interaction-aware Global Attention for Industrial Vision Anomaly Detection and Localization	共著	2025 年 6 月	Elsevier、Information Fusion124(103356)	Zhuo LI, Yifei Ge, and Lin MENG	01-16	あり
70	孟 林	A Survey of Deep Learning for Industrial Visual Anomaly Detection	共著	2025 年 6 月	Springer、Artificial Intelligence Review58(279)	Zhuo LI, Yuhao YAN, Xiangheng WANG, Yifei GE, and Lin MENG	1-82	あり
71	孟 林	YOLO-MSD: A Robust Industrial Surface Defect Detection Model via Multi-scale Feature Fusion	共著	2025 年 7 月	SPRINGER、Applied Intelligence55(840)	Yifei GE, Zhuo LI, and Lin MENG,	01-18	あり
72	孟 林	Personalized Gait Generation and Active Compliance Control Strategy for Lower Limb Rehabilitation Robots	共著	2025 年 9 月	IEEE、IEEE Transactions on Consumer Electronics1	Jiale REN, Aihui WANG, Hengyi LI, Shengda GAO, Huichao Duan, and Lin MENG,		あり
73	孟 林	SIMD-CP: SIMD with Redundant Bits Compression and Mixed-Precision Packing for Quantized DNNs	共著	2025 年 10 月	ACM、ACM Transactions on Embedded Computing Systems46043	Hayata KANEKO, Ryuto ISHIBASHI, and Lin MENG,	01-21	あり
74	孟 林	Deformation Prediction of 4D-Printed Active Composite Structures Based on Data Mining	共著	2025 年 11 月	Wiley、Advanced Science	Mengtao WANG, Yifan XU, Zaiyang LIU, Hidemitsu FURUKAWA, Zhongkui WANG, Ren XU, and Lin MENG,	326-339	あり
75	孟 林	Restoration of ancient Japanese manuscripts via the diffusion denoising restoration model and color space-based masking	共著	2025 年 12 月	nature、npj Heritage Science13(634)	Yuya Yoshizu, Hayata Kaneko, Ryuto Ishibashi and Lin Meng	01-14	あり
76	孟 林	AI-driven digital twin and delay-aware surrogate MPC framework for biogas production	共著	2026 年 3 月	ELSEVIER、Computers & Chemical Engineering177(114890)	Zenghui Wang, Zhihong Man, Lin Meng, Shijian Cang, Yanxia Sun	01-18	あり
77	八重樫 文	クリエイティブ資質の探求—誰もがデザイン思考の実践者になる時代への示唆	共著	2025 年 5 月	立命館大学経営学会、立命館経営学 64(1)	岩谷昌樹・八重樫 文	1-22	なし
78	八重樫 文	攻めのデザイン経営	共著	2025 年 7 月	立命館大学経営学会、立命館経営学 64(2)	岩谷昌樹・八重樫 文	1-20	なし

79	八重樫 文	野武士クリエイターによるプロジェクト駆動モデルの構造に関する考察：創造的実践を持続させる「駆動の原理」とその動態構造の解明	共著	2025 年 9 月	立命館大学デザイン科学研究所、デザイン科学研究 5(1)	長崎陸・石井拳之・八重樫文	7-182	なし
80	八重樫 文	守りのデザイン経営	共著	2025 年 9 月	立命館大学経営学会、立命館経営学 64(3)	岩谷昌樹・八重樫文	47-70	なし
81	八重樫 文	企業ブランドの歴史的 文脈共有と再認識による 企業文化の醸成：カード 型ツールによるワーク ショップ設計と評価	共著	2025 年 9 月	立命館大学デザイン科学研究所、デザイン科学研究 5(1)	早田殊門・八木邦果・富田晃夫・宮崎聡・八重樫文	9-165	なし
82	八重樫 文	デザイン研究における オートエスノグラフィの 可能性の検討	共著	2025 年 9 月	立命館大学デザイン科学研究所、デザイン科学研究 5(1)	八重樫文・三好春陽	51-65	なし
83	八重樫 文	インハウスデザイナーによる 組織変革のプロセス-リクルート における対話型組織開発による デザイン組織の再構築	共著	2025 年 9 月	立命館大学デザイン科学研究所、デザイン科学研究 5(1)	磯邊美香・磯貝直紀・鹿毛雄一郎・八重樫文	1-29	あり
84	八重樫 文	CI とデザイン経営 -PAOS に見る「川床」で 共創するコーポレート・アイ デンティティ	共著	2025 年 9 月	立命館大学デザイン科学研究所、デザイン科学研究 5(1)	岩谷昌樹・八重樫文	3-115	なし
85	八重樫 文	When Does Team Identification Pertain to Creative Problem-Solving Process?	共著	2025 年 4 月	Wiley、Creativity and Innovation Management	Goto S., Makino H., Ando T., Yaegashi K.		
86	矢野 桂司	日本文化資源デジタル・アーカイブの DX -バーチャル京都による空間 人文学の展開	単著	2025 年 5 月	韓国日本学会、日本學報 75(11)	矢野桂司	560-565	あり
87	矢野 桂司	「バーチャル京都」による 歴史都市の時空間復原と空間 人文学の展開	単著	2025 年 12 月	韓国日本語教育学会、日本語教育 114	矢野桂司	1-14	あり
88	矢野 健一	Archaeological 3D Scanning in Context - Multi-scalar 3D Capture and Visualization from the Final Jomon Period Sugisawa Site	共著	2025 年 8 月	Art Research Center, Ritsumeikan University、ART RESEARCH26(1)	NOXON, Corey, YANO, Kenichi	3-15	あり
89	矢野 健一	岡山県高島黒土遺跡発掘と 神武東征神話	単著	2026 年 1 月	立命館大学人文学会、立命館文學(696)	矢野健一	1-10	なし
90	矢野 健一	縄文集落と貯蔵穴の対応関係	単著	2026 年 3 月	千葉豊先生退職記念論集発刊会、千葉豊先生退職記念論集	矢野健一	326-339	なし
91	山内 啓之	大学生を対象とした地理学習の 好嫌傾向の調査と分析	共著	2025 年 8 月	日本地理教育学会、新地理 73(2)	山内啓之、小倉拓郎、芝田篤紀、大井喜代	1-12	あり
92	余語 琢磨	京都五条坂にみる陶磁器業の 近代化：電磁器製造家石田家の 史資料から	単著	2026 年 2 月	立命館大学文学部考古学・文化遺産専攻、立命館大学考古学研究-3	余語 琢磨	211-222	
93	李 威特 (Li Weite)	3 次元計測で取得される大規模 点群データを用いた可視化技術：有 形文化財を主な事例として	共著	2025 年 12 月	日本シミュレーション学会、シミュレーション 45(1)	田中 覚; 李 亮; 李 威特; 潘 姣	31-40	

94	李 亮	3D-NLM: Voxel-based non-local means for 3D point cloud noise detection and smoothing	共著	2025 年 8 月	Elsevier、Computers & Graphics132104348	Weimin Wang, Xin Tan, Liang Li, Yu Liu, Qiong Chang	132104348	あり
95	Crossman Lisa	G (hosting) Institutional Memory through Exhibition Making	共著	2025 年 6 月	PARSE、Parse Journal	Sharon X. Liu		
96	CUCINELLI DIEGO	Deformity in Ancient Japanese Tales, Myth and Buddhist Anecdotes	単著	2026 年 3 月	Romanian-American University、Romanian Economic and Business Review	CUCINELLI DIEGO	44–60	
97	MCCORMICK John	Generalizable Interaction Recognition for Learning from Demonstration Using Wrist and Object Trajectories	共著	2025 年 10 月	Electronics、Electronics14	Pyaraka JC, Isaksson M, McCormick J...2 more	4295	
98	MCCORMICK John	Virtual reality as a tool supporting self-motivated training for disability support workers	単著	2025 年 5 月	SAGE Publications、Digital Health11	Jeni Paay, Esther Wilding, Kim Vincs, John McCormick, Rachael McDonald, Lee Trevena	-15	
99	RAMBELLI FABIO	The Buddha's Dues	単著	2026 年 1 月	Brill、Interdisciplinary Journal for Religion and Transformation in Contemporary Society	RAMBELLI FABIO	1–18	
100	RAMBELLI FABIO	The World of Japanese Medieval Musicians: Gagaku...	単著	2025 年 9 月	Publications de l'École Pratique des Hautes Études, Annuaire de l'EPHE (Sciences religieuses)132	RAMBELLI FABIO	-170	
101	THAWONMAS Ruck	Now You See Me: Recognizing the Player's Arousal Changes in the Game Through Game Footage Videos and Game Context Features	共著	2025 年 4 月	Springer Nature、Proc. of the 2024 Computers and Games (CG 2024), Lecture Notes in Computer Science, M. Hartisch, CH.Hsueh, and J. Schaeffer (eds.)15550	Yi Xia, Xiaoxu Li, Siyuan Chen, and Ruck Thawonmas	59-169	あり
102	THAWONMAS Ruck	The Role of Large Language Model-Generated Stories in the Narrative Experience of Serious Visual Novel Games	共著	2025 年 7 月	Taylor & Francis、International Journal of Human-Computer Interaction	Mustafa Can Gursesli, Siyuan Chen, Mury Fajar Dewantoro, Xiao You, Ege Anbar, Pittawat Taveekitworachai, Febri Abdullah, Pietro Tarchi, Mirko Duradoni, Antonio Lanata, Andrea Guazzini, Ruck Thawonmas		あり
103	THAWONMAS Ruck	Internet Gaming Disorder and Psychological Distress: a PRISMA systematic review	共著	2025 年 7 月	Cell、Heliyon	Mustafa Can Gursesli, Andrea Guazzini, Ramita Thawonmas, Clara Valenti, Mirko Duradoni, Ruck Thawonmas		あり
104	THAWONMAS Ruck	Fighting to the beat: Multi-instrumental adaptive background	共著	2025 年 7 月	Elsevier、Entertainment Computing55	Ibrahim Khan, Thai Van Nguyen, Ruck Thawonmas	55	あり

		music approach						
105	THAWONMAS Ruck	Initializing Interactive Treasure Hunts in Cultural Heritage Sites: An LLM-Based Approach	共著	2025 年 8 月	Springer Nature、Proc. of the 24th International Conference on Entertainment Computing, Tokyo, Japan, Aug. 27-30, 2025, published in Lecture Notes in Computer Science16042	Pablo Gutiérrez-Sánchez, Pedro A González-Calero, Marco A Gómez-Martín, Pedro P Gómez-Martín, Ruck Thawonmas	16042	あり
106	THAWONMAS Ruck	Sound Judgment: A Multi-Year Evaluation of Audio Aesthetics and Gameplay Impact in DareFightingICE Sound Design Competition	共著	2025 年 8 月	IEEE、Proc. of the 2025 IEEE Conference on Games (CoG 2025)	Ibrahim Khan, Mustafa Can Gursesli, Thai Van Nguyen, Ruck Thawonmas		あり
107	THAWONMAS Ruck	Sonic Doom: Enhanced Sound Design and Accessibility in a First-Person Shooter Game	共著	2025 年 8 月	IEEE、Proc. of the 2025 IEEE Conference on Games (CoG 2025)	Ibrahim Khan, Thai Van Nguyen, Mustafa Can Gursesli, Ruck Thawonmas		あり
108	THAWONMAS Ruck	Fit to Fling: Genetic Prompt Optimization for the LLMs4PCG Competition	共著	2025 年 8 月	IEEE、Proc. of the 2025 IEEE Conference on Games (CoG 2025)	Jesse Grabowski, Yi Xia, Pratch Suntichaikul, Haekal Damar Qudsi Madani, Ruck Thawonmas		あり
109	THAWONMAS Ruck	Can Multimodal LLMs Reason About Stability? An Exploratory Study with Insights from the LLMs4PCG Challenge	共著	2025 年 8 月	IEEE、Proc. of the 2025 IEEE Conference on Games (CoG 2025)	Mury F Dewantoro, Febri Abdullah, Yi Xia, Ibrahim Khan, Ruck Thawonmas, Wenwen Ouyang		あり
110	THAWONMAS Ruck	Dynamic difficulty adjustment using a large language model: A case study in Magic: The Gathering	共著	2025 年 9 月	Elsevier、Entertainment Computing55	Xiaoxu Li, Zifan Ye, Yi Xia, Ruck Thawonmas	55	あり
111	THAWONMAS Ruck	The Novice, the Expert, and the Algorithm: A Comparative Analysis of Human Expertise Transfer and AI Performance in Audio-Only Gaming Environments	共著	2025 年 10 月	MDPI、Applied Sciences15(21)	Ibrahim Khan, Thai Van Nguyen, Cvetković Tijan Juraj, Ruck Thawonmas		あり
112	THAWONMAS Ruck	Exploration of Stability Judgments: Assessing Multimodal LLMs in Game-Inspired Physical Reasoning Tasks	共著	2025 年 10 月	MDPI、Applied Sciences15(20)	Mury Fajar Dewantoro, Febri Abdullah, Yi Xia, Ibrahim Khan, Ruck Thawonmas, Wenwen Ouyang, Fitra Abdurrachman Bachtiar		あり
113	THAWONMAS Ruck	PsySpace: Simulating Emergent Psychological Dynamics in Long-Duration Space Missions using Multi-Agent LLMs	共著	2025 年 10 月	OpenReview、Proc. of Open Conference of AI Agents for Science 2025	Gemini-2.5-Pro, ChatGPT-5.0, Ibrahim Khan, Mustafa Can Gursesli, Ruck Thawonmas		あり

114	THAWONMAS Ruck	Green by Design: Energy-Guided Reranking of LLM-Generated Programs	共著	2025 年 10 月	OpenReview、Proc. of Open Conference of AI Agents for Science 2025	ChatGPT 5, Yi Xia, José M Aragón-Jurado, Gemini 2.5 Pro, Ruck Thawonmas		あり
115	THAWONMAS Ruck	Real-time Fighting Game Commentary Generation via Strategic Rationale Distillation	共著	2025 年 10 月	IEEE、Proc. of 2025 IEEE/TEIE International Conference on Consumer Electronics-Asia (ICCE-Asia 2025)	Boyu Chuang, Menghan Zhang, Thai van Nguyen, Yiyang Liu, Ruck Thawonmas		あり
116	THAWONMAS Ruck	From" Optimal" to" Intentional": Strategic Understanding in Fighting Game AI via Large Language Models	共著	2025 年 10 月	IEEE、Proc. of 2025 IEEE/TEIE International Conference on Consumer Electronics-Asia (ICCE-Asia 2025)	Yiyang Liu, Boyu Chuang, Thai Van Nguyen, Ruck Thawonmas		あり
117	THAWONMAS Ruck	Silent vs. Sound: EEG-Based Investigation of Uniform Auditory Stimuli During a Serious Game	共著	2025 年 12 月	IEEE、Prof. of 2025 IEEE 14th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2025)	Mustafa Can Gursesli, Pietro Tarchi, Maria Chiara Lanini, Mirko Duradoni, Arda Tunc Yaras, Emir Akinci, Ulas Yurdakul, Alessandro Tonacci, Anna Enrica Tosti, Andrea Guazzini, Ruck Thawonmas, Antonio Lanata	1063-1065	あり
118	THAWONMAS Ruck	Sightless Showdown: a Comparative Study of AI and Human Performance Without Vision in a Fighting Game	共著	2025 年 12 月	IEEE、Prof. of 2025 IEEE 14th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2025)	Ibrahim Khan, Mustafa Can Gursesli, Ruck Thawonmas, Antonio Lanata	1071-1075	あり
119	THAWONMAS Ruck	Familiarity Vs Performance: the Link Between Gaming Experience and Audio Recognition	共著	2025 年 12 月	IEEE、Prof. of 2025 IEEE 14th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2025)	Ibrahim Khan, Mustafa Can Gursesli, Ruck Thawonmas, Antonio Lanata	1076-1080	あり
120	THAWONMAS Ruck	Bring Your Own Story: Generating Interactive Visual Novels with AI	共著	2025 年 12 月	IEEE、Proc. of 2025 IEEE 14th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2025)	Zifan Ye, Menghan Zhang, Pratch Suntichaikul, Satoru Goto, Oki Nakamura, Ruck Thawonmas	627-630	あり
121	THAWONMAS Ruck	AP-Based LLM Story Generation: Envision Technology Development Through Science Fiction	共著	2025 年 12 月	IEEE、Proc. of 2025 IEEE 14th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2025)	Menghan Zhang, Zifan Ye, Pratch Suntichaikul, Satoru Goto, Oki Nakamura, Ruck Thawonmas	631-634	あり
122	THAWONMAS Ruck	Green Gaming: Automated Energy Consumption Reduction for Doom Engine	共著	2026 年 1 月	IEEE、IEEE Consumer Electronics Magazine15(1)	José Miguel Aragón-Jurado, Patricia Ruiz, Bernabé Dorronsoro, Ruck Thawonmas	15-21	あり
123	武藤 祥子	松竹大谷図書館のデジタルアーカイブー公開の経緯と活用事例ー	単著	2026 年 1 月	専門図書館 324 号		24-27	なし

124	Stephanie Santschi	When Mountains Move: Decoding Spatial Practices in Ukiyo-e Through Participatory Geolocalization and Computer Vision	単著	2025 年 11 月	Digital Studies			あり
125	Stephanie Santschi	From Print to Place: Creating an Integrative Geolocalization Workflow Using Citizen Scientists and Computer Vision AI	共著	2025 年 12 月	Conference Proceedings for The Digital Orientalist	Drew Richardson		なし
126	杉本 竜	松平定勝小考	単著	2026 年 3 月	桑名市博物館紀要 20 号			

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	赤間 亮	データ駆動研究を実現する「ARC リサーチスペース」をめぐる考察	2026 年 9 月	第 35 回日本資料専門家欧州協会年次大会、ドイツ:ハイデルベルグ	
2	稲葉 光行	Bridging Intergenerational Cultural Differences through the Metaverse	2025 年 9 月	Replaying Japan Conference 2025、オーストラリア: Melbourne, Austraria	Risa Akai, Honoka Shintaku, Mika Nishiyama
3	稲葉 光行	子どもを中心とした街づくりの支援による大学生のコミュニティ意識の変容	2025 年 11 月	国際混合研究法学会アジア地域会議 2025、日本:東京	山中左織
4	稲葉 光行	生成型 AI による文体の模倣:「なりすまし」の可能性について	2025 年 11 月	日本法科学技術学会誌第 31 回学術集会、日本:東京	石原俊一, 柘植寛, 財津亘, 金明哲
5	木立 雅朗	窯からみた吉向焼の歴史・桶窯の歴史を中心に	2025 年 10 月	交野市市民文化財講座、日本:大阪府交野市 交野市立保険福祉総合センター	
6	木立 雅朗	伝統工芸の記録と活用	2025 年 10 月	立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」研究拠点形成支援プロジェクト ARC Days2025、日本:京都府京都市立命館大学衣笠キャンパス	
7	小寺 未知留	A Comparison between L. Meyer's Theory of Music Style Change and a Mathematical Modeling of Music Evolution: Bridging the Gap between 20th Century Music Theory and 21st Century Music Informatics	2025 年 9 月	The 8th Biennial Conference of the East Asian Regional Association of The International Musicological Society (IMSEA2025)、中華人民共和国:Guangxi Arts University	
8	小寺 未知留	音の芸術だが音楽ではないとされる（こともある）サウンド・アートと音楽	2025 年 9 月	中部哲学会 2025 年大会、日本:三重大学	
9	斎藤 進也	Barriers in Video Gaming Experience of Visually Impaired Players: A TEM-based Comparative Study with	2025 年 9 月	Replaying Japan 2025、オーストラリア:Melbourne	Ayane Hasegawa, Tatsuya Sato

		Sighted Players			
10	斎藤 進也	Creating Virtual Museum Entertainment that Promotes User Agency through Dynamic Changes in the In-Game Environment	2025 年 9 月	Replaying Japan 2025、オーストラリア:Melbourne	Yusai Yamada, Ayane Hasegawa, Kazufumi Fukuda
11	斎藤 進也	Development of a VR Content to Recreate the Cinema Culture of the Silent Film Era	2025 年 9 月	Replaying Japan 2025、オーストラリア:Melbourne	Canyue LIU, Ayane HASEGAWA, Shosaku TAKEDA, Kazutoshi IIDA
12	斎藤 進也	ゲームエンジンとオントロジーを用いた仮想展示空間の構築	2025 年 12 月	人文科学とコンピューターシンポジウム 2025、日本九州大学伊都キャンパス	山田 侑哉, 福田 一史
13	斎藤 進也	活動弁士を題材とした VR 体験の創出: かつての映画文化とゲームテクノロジーの融合	2026 年 3 月	情報処理学会 INTERACTION 2026、日本:東京	LIU Canyue、飯田和敏、竹田章作
14	斎藤 進也	視覚障害者による市販ビデオゲームのプレイにおける体験構築プロセス	2026 年 3 月	情報処理学会 INTERACTION 2026、日本:東京	長谷川綾音、サトウタツヤ
15	SEIFMAN Travis	絵巻に息づく琉球使節	2025 年 7 月	立命館大学土曜講座、日本:立命館大学	
16	SEIFMAN Travis	Art Research Center's 'Research Space' for Data-Driven Research, in Partnership with Yanai Initiative	2026 年 3 月	Council on East Asian Libraries (CEAL) カナダ:Vancouver	
17	島川 博光	Clustering-based analysis of the relationship between clothing attributes and ease of styling	2025 年 8 月	International Conference on Artificial Intelligence, Computer, Data Sciences and Applications, Antalya, Turkey:	Kousuke Yamashita, Fumiko Harada
18	島川 博光	Identifying Messages to Achieve Goals According to Motivation	2025 年 8 月	International Conference on Artificial Intelligence, Computer, Data Sciences and Applications, Antalya, Turkey:	Jinsei Wada, Fumiko Harada
19	島川 博光	Proposal of a business model for enhancing customer expectations and satisfaction through the use of generative AI	2025 年 8 月	International Conference on Artificial Intelligence, Computer, Data Sciences and Applications, Antalya, Turkey:	LIM Chanwoo, Fumiko Harada
20	島川 博光	Evaluating Assists in Specifying Requirements for Reinforcement Learning	2025/09	International Mobile, Intelligent, and Ubiquitous Computing Conference, Egypt:Cairo	Wataru Mori, Fumiko Harada
21	鈴木 桂子	「近代日本の身装文化とグローバルヒストリー」	2025 年 6 月	2025 年度 服装・身装文化デジタルアーカイブ研究会、日本:国立民族学博物館 第3 演習室(4F)	
22	竹中 悠美	東アジアの〈家〉における芸術文化の国際的総合研究	2025 年 8 月	ARC Days 2025、日本:オンライン	関根和矢,ナールイゼ・ビールナツキ
23	竹中 悠美	Bijinga in the Intimate Sphere: On KATSUKAWA Shunshō's Hand-Painted Ukiyo-e and Illustrations	2025 年 10 月	Freie Universität Berlin - Ritsumeikan University Joint Workshop: Arts in the Home and Familial Succession in the Arts、日本:Ritsumeikan University KIC, Kyoto	
24	竹中 悠美	イギリスの庭園写真におけるメランコリーとケア	2025 年 11 月	国際シンポジウム 芸術・思想におけるメランコリーの現在、日本:立命館大学衣笠キャンパス	
25	竹中 悠美	「東アジアの〈家〉における芸術文化の国際的総合研究」成果報告	2026 年 2 月	文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」2025 年	高橋千晶、橋本真佐子、荒木慎太郎

				度成果発表会、日本:オンライン	
26	田中 覚	3次元計測点群を活用した大規模有形文財の透視可視化と特徴強調可視化	2025 年 4 月	Vision, Graphics, and Sensing Workshop 2025、日本:立命館大学大阪いばらきキャンパス	
27	田中 覚	High-Visibility Edge-Highlighting Visualization of Large-Scale 3D-Scanned Point Clouds of Cultural Heritage Objects	2025 年 4 月	2025 IEEE 18th Pacific Visualization Conference (PacificVis), Taipei City, Taiwan, 2025、台湾:Chang Yung-fa Foundation International Convention Center in Taipei, Taiwan	Liang Li
28	田中 覚	VR 空間内で 3 次元計測点群を用いた玉置神社本殿の特徴融合可視化	2025 年 7 月	The 2nd Japan Visualization Symposium (JapanVis 2025)、日本:明治大学駿河台キャンパス	松尾泰志, 鷹取慧, 李亮,
29	田中 覚	3D Point Cloud-Based Visual Analysis and Immersive Visualization of Borobudur Temple	2025 年 7 月	The 2nd Japan Visualization Symposium (JapanVis 2025)、日本:明治大学駿河台キャンパス, 東京都千代田区	Jiajun Gao, Jiao Pan, Satoshi Takatori, Fadjat Ibnu Thufail, Brahmantara, Liang Li,
30	田中 覚	3 次元計測点群を用いた祇園祭・太子山の山建て VR 鑑賞システム	2025 年 7 月	The 2nd Japan Visualization Symposium (JapanVis 2025)、日本:明治大学駿河台キャンパス, 東京都千代田区	寺尾優希, 鷹取慧, 李亮,
31	田中 覚	マルチスケール主成分分析に基づく 3 次元計測データのエッジ強調可視化 (学生優秀発表賞)	2025 年 7 月	The 2nd Japan Visualization Symposium 2025 (JapanVis 2025)、日本:明治大学駿河台キャンパス, 東京都千代田区	岡島智弥, 鷹取慧, 李亮,
32	田中 覚	3 次元計測を活用した文化財のデジタル保存とビジュアル分析	2025 年 7 月	2025 年度立命館先進研究アカデミー (RARA) 主催シンポジウム: アート×テクノロジーが 対象 “可視化” する 未来研究デザイン、日本:立命館大学大阪いばらきキャンパス, 大阪府茨木市	
33	田中 覚	High-Resolution Point-Based Visual Analysis of Cultural Heritage Using 3D Scanned Data	2025 年 8 月	Australasian Simulation Congress (ASC 2025)、オーストラリア:Adelaide Convention Centre	
34	田中 覚	局所主成分分析に基づく 3 次元計測点群のエッジ抽出のための領域サイズ自動最適化	2025 年 11 月	電子情報通信学会 関西支部 若手研究発表会、日本:大阪公立大学, 大阪府大阪市	岡島 智弥, 鷹取 慧, 李 亮,
35	田中 覚	半透明 VR 環境を用いた玉置神社本殿の特徴強調可視化	2025 年 11 月	電子情報通信学会 関西支部 若手研究発表会、日本:大阪公立大学, 大阪府大阪市	松尾泰志, 鷹取慧, 李亮,
36	田中 覚	適応的な不透明度制御による文化財計測点群の透視可視化の視認性向上	2025 年 12 月	2025 年度核融合科学研究所一般共同研究(研究会)・先進的可視化表現法とデータ科学の研究会 (VR2025)、日本:核融合科学研究所, 岐阜県土岐市	野尻捷月,
37	田中 覚	Understanding Tangible Cultural Heritage through 3D Digital Archives: Visualization-Based Analysis of High-Resolution Measurement Data	2026 年 3 月	Sustainability in a Global Perspective、イタリア:Bologna, Italy	
38	田中 覚	High-Resolution Visual Analysis of 3D Scanned Big Data of Cultural Heritage	2026 年 3 月	Vositing Professor's Talk at Poznań University of Technology、ポーランド:	
39	田中 弘美	織物の光沢発生メカニズムの推定	2026 年 1 月	報処理学会 コンピュータビジョン研究会、日本:大阪府豊中市	田中 士郎, 島田 伸敬
40	中村 大	AP-Based LLM Story Generation: Envision Technology Development	2025 年 9 月	2025 IEEE 14th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2025)、日本:大阪市北区	Menghan Zhang, Zifan Ye, Pratch Suntichaikul, Satoru Goto, Ruck Thawonmas

		Through Science Fiction			
41	中村 大	考古学×デザイン・アートの挑戦	2025 年 10 月	第 153 回 国際 A R C セミナー、日本京都市北区・立命館大学	中村 大
42	中村 大	考古学、デザイン・アート、レジリエンスモデル	2025 年 10 月	第 5 回 環太平洋文明研究センター研究方法論研究会、日本京都市北区・立命館大学	中村 大
43	中村 彰憲	The Transformation of Final Fantasy XIV: Examining the Roles of Naoki Yoshida from Transformational Leader Theory Perspective”	2026 年 2 月	DiGRA Japan 2026、日本 Kinki University	Akinori Nakamura
44	西浦 敬信	Augmented sound-image perception using pre-virtual-leading hypersonic signals with bass frequency envelopes	2025 年 5 月	ICA-ASA 2025、アメリカ合衆国 New Orleans, USA	Ryota Imanaka, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
45	西浦 敬信	Evaluation of noise reduction performance of active noise control with optical laser microphone inreverberant environments	2025 年 5 月	ICA-ASA 2025、アメリカ合衆国 New Orleans, USA	Maoto Mizutani, Kenta Iwai, Takanobu Nishiura, and Yoshiharu Soeta
46	西浦 敬信	Evaluation of demodulated sound enhancement based on carrier waves boosting with distortion components of modulated wave for parametric array loudspeakers,	2025 年 8 月	ICTCA 2025、大韓民国 Busan, Korea	Mizuki Iwagami, Yoto Ikezaki, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
47	西浦 敬信	Virtual sound source construction based on direct-to-reverberant ratio control using a line array loudspeaker consisted of parametric and electrodynamic loudspeakers	2025 年 8 月	ICTCA 2025、大韓民国 Busan, Korea	Takumi Iriguchi, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
48	西浦 敬信	Design of Acoustic Metadata on Object-Based Audio Utilizing Estimated 3D-Position of Sound Source in Video	2025 年 9 月	IEEE 14th Global Conference on Consumer Electronics、日本大阪	Subaru Kato, Masato Nakayama, Takanobu Nishiura, and Yoshiharu Soeta
49	西浦 敬信	Distance Localization of Virtual Sound Source Based on Arrays of Conventional Loudspeaker and Parametric Array Loudspeaker	2025 年 9 月	IEEE 14th Global Conference on Consumer Electronics、日本大阪	Takumi Yamasaki, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
50	西浦 敬信	Speech Enhancement in Time-Frequency Domain with Harmonic-Weighted Loss Function for Optical Laser Microphone	2025 年 9 月	IEEE 14th Global Conference on Consumer Electronics、日本大阪	Yuki Nakano, Yutao Zhang, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
51	西浦 敬信	オブジェクトベース音響における動画像に基づく音響メタデータ設計のための深度方向に対する音像定位の評価	2025 年 9 月	日本音響学会 2025 年秋季研究発表会、日本仙台	加藤 昂, 中山 雅人, 西浦 敬信, 添田喜治
52	西浦 敬信	キャリア波抑圧型両側波帯変調方式および周波数	2025 年 9 月	日本音響学会 2025 年秋季研究発表会、日本仙台	岩上 瑞希, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信

		帯域分割を用いた極小領域オーディオスポットの形成と音声漏洩低減			
53	西浦 敬信	ハイパーソニック・ブリ バーチャルリード信号の 超音波知覚経路に基づく 音像定位強調	2025 年 9 月	日本音響学会 2025 年秋季研究発表 会、日本仙台	今中 峻太, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信
54	西浦 敬信	パラメトリック・動電型 スピーカアレーを用いた 波面合成による距離非依 存音像制御	2025 年 9 月	日本音響学会 2025 年秋季研究発表 会、日本仙台	山崎 拓海, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信
55	西浦 敬信	パラメトリックスピーカ を用いた聴覚マスキング の制御に基づくオーディ オスポット形成における マスクの評価	2025 年 9 月	日本音響学会 2025 年秋季研究発表 会、日本仙台	橋田 朋希, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信
56	西浦 敬信	極小領域オーディオスポ ットを用いたバイノーラ ル再生に基づく音像定位 精度の評価	2025 年 9 月	日本音響学会 2025 年秋季研究発表 会、日本仙台	仲程 俊介, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信
57	西浦 敬信	光レーザマイクロホンを用いたマルチチャンネルフ ィードフォワードアクテ ィブノイズコントロール システムの複数実環境下 における実機性能評価	2025 年 9 月	日本音響学会 2025 年秋季研究発表 会、日本仙台	水谷 真紘, 岩居 健太, 中山 雅人, 西 浦 敬信, 添田 喜治
58	西浦 敬信	Design of speech leakage-suppressed audio-spot based on auditory masking area control with active masker cancellation using parametric array loudspeakers	2025 年 10 月	APSIPAASC 2025、 シンガポール:シンガポール	Tomoki Hashida, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
59	西浦 敬信	Evaluation of auditory and tactile perception for augmented sound-image enhancement using pre- virtual-leading hypersonic signals	2025 年 10 月	APSIPAASC 2025、 シンガポール:シンガポール	Ryota Imanaka, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
60	西浦 敬信	Multichannel feedforward active noise control system with optical laser microphone in reverberant environments	2025 年 10 月	APSIPAASC 2025、シンガポール:シン ガポール	Maoto Mizutani, Kenta Iwai, Masato Nakayama, Takanobu Nishiura, and Yoshiharu Soeta
61	西浦 敬信	Cascaded Three-Stage Single-Channel Speech Separation Followed by Noise Suppression and High-Frequency Components Reconstruction for Optical Laser Microphone	2025 年 11 月	2025 International Workshop on Smart Info-Media Systems in Asia、 タイ:Phuket, Thailand	Sun Hujie, Yutao Zhang, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
62	西浦 敬信	Voice Conversion-based Data Augmentation for Enhancing Speech from Optical Laser Microphone	2025 年 11 月	2025 International Workshop on Smart Info-Media Systems in Asia、 タイ:Phuket, Thailand	Yuki Nakano, Yutao Zhang, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
63	西浦 敬信	Acoustic holography based on direct-to- reverberant ratio control using parametric array loudspeakers and	2025 年 12 月	ASA-ASJ 2025、 アメリカ合衆国:Hawaii, USA	Takumi Yamasaki, Takuma Ekawa, Yuting Geng, Toru Takahashi, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura

		electro-dynamic loudspeakers			
64	西浦 敬信	Assessment of oral functions based on oral- related audible sounds	2025 年 12 月	ASA-ASJ 2025、 アメリカ合衆国:Hawaii, USA	Tomoki Hashida, Yuting Geng, Masato Nakayama , Takanobu Nishiura, and Masaki Kambara
65	西浦 敬信	Intermodulation-based audible masker generation by band- limited white-noise- based carrier wave for audible area control with parametric array loudspeakers	2025 年 12 月	ASA-ASJ 2025、 アメリカ合衆国:Hawaii, USA	Keiichi Moriyama, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
66	西浦 敬信	Multiple sideband decomposition of double sideband modulation with suppressed carrier for speech-leakage- reduced pin-spot audio	2025 年 12 月	ASA-ASJ 2025、 アメリカ合衆国:Hawaii, USA	Mizuki Iwagami, Yuting Geng, Masato Nakayama, and Takanobu Nishiura
67	西浦 敬信	Sound field reproduction based on mirror image source method using object-based audio for Japanese Gion festival music	2025 年 12 月	ASA-ASJ 2025、 アメリカ合衆国:Hawaii, USA	Subaru Kato, Masato Nakayama, Takanobu Nishiura, and Yoshiharu Soeta
68	西浦 敬信	噛み合わせ音に基づく口 腔ヘルスケア	2025 年 12 月	日本音響学会関西支部第 28 回若手研 究者交流研究発表会、日本:京都	橋田 朋希, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信, 神原 正樹
69	西浦 敬信	振動物体付近の複数話者 を対象とした光レーザー マイクロホンによる収録 音声の分離と音質改善	2025 年 12 月	日本音響学会関西支部第 28 回若手研 究者交流研究発表会、日本:京都	孫 胡傑, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信
70	西浦 敬信	波面合成による直線スピ ーカアレーを用いたシー ムレスな遠近両用音像ホ ログラムの構築	2025 年 12 月	日本音響学会関西支部第 28 回若手研 究者交流研究発表会、日本:京都	山崎 拓海, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信
71	西浦 敬信	複数のパラメトリックス ピーカを用いた混変調歪 みを活用した音空間の分 割	2025 年 12 月	日本音響学会関西支部第 28 回若手研 究者交流研究発表会、日本:京都	森山 慶一, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信
72	西浦 敬信	アクティブ聴覚マスキ ングを?いたオーディオスポ ット形成における時間・ スペクトル包絡平坦化に 基づく 音声漏洩抑制	2026 年 3 月	日本音響学会 2025 年春季研究発表 会、日本:東京	橋田 朋希, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信
73	西浦 敬信	キャリア波抑圧型両側波 帯変調方式と対数スケ ール帯域分割に基づく極小 領域オーディオスポット の音声漏洩低減	2026 年 3 月	日本音響学会 2025 年春季研究発表 会、日本:東京	岩上 瑞希, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信
74	西浦 敬信	デュアル遠方参照マイク ロホンを用いたマルチチ ャネルフィードフォワード アクティブノイズコン トロールシステムの実騷 音環境評価	2026 年 3 月	日本音響学会 2025 年春季研究発表 会、日本:東京	水谷 真絃, 岩居 健太, 中山 雅人, 西 浦 敬信, 添田 喜治
75	西浦 敬信	音像強調のためのハイパ ーソニック・プリバーチ ャルリード信号における 音像定位キューの評価,	2026 年 3 月	日本音響学会 2025 年春季研究発表 会、日本:東京	今中 峻太, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信
76	西浦 敬信	実映画の動画像を用いた 音響メタデータ自動生成 における音像定位の評価	2026 年 3 月	日本音響学会 2025 年春季研究発表 会、日本:東京	加藤 昂, 中山 雅人, 西浦 敬信, 添田 喜治
77	西浦 敬信	実測信号とシミュレーシ ョン信号の残差最小化を 目的とした深層学習に基	2026 年 3 月	日本音響学会 2025 年春季研究発表 会、日本:東京	中野 裕貴, 張 宇涛, 耿 毓庭, 中山 雅人, 西浦 敬信

		づく光レーザマイクロホン受音信号の擬似生成			
78	西林 孝浩	初唐期西方浄土変相図の形成に関する試論	2025 年 9 月	仏教芸術学会 第 6 回研究発表会、日本:オンライン	西林孝浩
79	西林 孝浩	墓の中の宴：唐代葬礼美術の図像学	2025 年 10 月	ベルリン自由大学・立命館大学 共同ワークショップ「家の中の芸術と芸術の家族的継承」、日本:立命館大学衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館 カンファレンスルーム	西林孝浩
80	西林 孝浩	唐前半期の礼制システムと仏教美術	2025 年 10 月	『第三回立命館大学×清華大学 人文文学シンポジウム 東アジアの知の架橋』、日本:立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム	西林孝浩
81	前田 亮	Time-Aware Hybrid Retrieval for Historical RAG Systems	2026 年 3 月	第 18 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2026) 論文集、日本:兵庫県神戸市	Haoyue Gu and Akira Maeda
82	前田 亮	曖昧な読書記憶に基づく書籍検索のためのランキング学習手法	2026 年 3 月	第 18 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2026) 論文集、日本:兵庫県神戸市	大野 泰明, 前田 亮
83	前田 亮	Cross-Lingual Vector Space Alignment for Semantic Representation of Japanese Art and Literature in Chinese Contexts	2026 年 3 月	第 15 回知識・芸術・文化情報学研究会、日本:立命館大学 大阪いばらきキャンパス	Zipei Liu, Bohao Wu, and Akira Maeda
84	前田 亮	大規模言語モデルにおける AI アライメント調整前後の一貫性への影響の評価手法	2026/02/28	第 18 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2026) 論文集、日本:兵庫県神戸市	Junyi Yang, 前田 亮
85	松葉 涼子	北斎作『絵本彩色通』の創作背景の諸問題と解題作成におけるデジタル活用	2025 年 9 月	日本近世文学会 国際研究集会、イギリス:ケンブリッジ	松葉涼子
86	美川 圭	歴史学から見る神護寺三肖像画	2025 年 11 月	読史会大会、日本:	
87	美川 圭	源頼朝像から後鳥羽上皇像へー神護寺と水無瀬ー	2025 年 11 月	第 3 回歴史シンポジウム 水無瀬離宮を考える 水無瀬と文学その 1、日本:島本町ふれあいセンター	美川 圭
88	美川 圭	神護寺画像から見た院政ー源頼朝像の輸入絵絹をめぐるー	2025 年 12 月	13 世紀を中心として見たユーラシア 東部地域と日本ー王権・都・離宮・庭園ーこく、日本:国際日本文化センター	美川 圭
89	三須 祐介	映画「島から島へ (由島至島)」コメント	2025 年 7 月	「由島至島」座談会、日本:京都	三須祐介
90	三須 祐介	台湾小説における死者の語りとその欲望ー陳思宏『亡霊の地』とジェンダー、そしてクィアネス	2025 年 8 月	表象文化論学会第 19 回大会 シンポジウム「通じなさを抱えてー言葉をまたぐフェミニズム／クィアのポリティクス」、日本:東京	三須祐介
91	三須 祐介	京劇「金鎖記」と魏海敏	2025 年 9 月	張愛玲を日本語で読む、日本:神戸	三須 祐介
92	孟 林	SEAD+:Segment Element based Anomaly Detection	2025 年 6 月	The 2025 IEEE International Conference on Real-time Computing and Robotics (RCAR 2025)、日本:Toyama,Japan	Kosaburo Hattori, Ryuto Ishibashi, Hayata Kaneko, and Lin Meng
93	孟 林	Hand Gesture Recognition for Real-Time Nano Drone Control on RISC-V	2025 年 6 月	The 2025 IEEE International Conference on Real-time Computing and Robotics (RCAR 2025)、日本:Toyama,Japan	Yexin Zhang, Zhenglin Su, and Lin Meng
94	孟 林	Deep Learning-Based Cell Type Deconvolution in Spatial Transcriptomics: A Brief Review	2025 年 7 月	The 6th International Conference on Neural Computing for Advanced Applications (NCAA 2025)、中華人民共和国:HONGKONG	Jiale Ren, Xin Wang, Jie Han, Ren Xu and Lin Meng

95	孟 林	Improving training phase for restoration of ancient documents using DeepFillv2	2025 年 7 月	The 6th International Conference on Neural Computing for Advanced Applications (NCAA 2025)、 中華人民共和國:HONGKONG	Yuuki Fujita, Hayata Kaneko and Lin Meng
96	孟 林	A Challenge on Gradient Compression of Distributed Training in Image Classification	2025 年 7 月	The 6th International Conference on Neural Computing for Advanced Applications (NCAA 2025)、 中華人民共和國:HONGKONG	Zhongyu Wang, Zhenling Su, Yexin Zhang and Lin Meng
97	孟 林	Dynamic Threshold Token Subsampling for Vision Transformer in Cloud Computing	2025 年 7 月	The 6th International Conference on Neural Computing for Advanced Applications (NCAA 2025)、 中華人民共和國:HONGKONG	Jiasheng Yang, Qi Li, Xiaohong Li and Lin Meng
98	孟 林	Action Recognition Using MEViViT : Modality Embedding ViViT	2025 年 8 月	the 6th International Conference on Industrial Artificial Intelligence、 中華人民共和國:Shenyang	Takashi Higashi, Ryuto Ishibashi, and Lin Meng
99	孟 林	Applicability of Low-Rank Adaptation in Vision Transformer at Fine-Grained Image Classification Tasks	2025 年 8 月	the 6th International Conference on Industrial Artificial Intelligence、 中華人民共和國:Shenyang	Hikaru Fukusaka, and Lin Meng
100	孟 林	Lightweight Industrial Anomaly Detection via Multi-Architecture Knowledge Distillation	2025 年 8 月	the 6th International Conference on Industrial Artificial Intelligence、 中華人民共和國:Shenyang	Yuhao Yan, Chengyan Zhao, Zhuo Li, and Lin Meng
101	孟 林	Design and Development of a Lightweight YOLOv11-Based Model for UAV Image Recognition	2025 年 9 月	The 7th International Symposium on Advanced Technologies and Applications in the Internet of Things (ATAIT 2025)、 日本:Kusatsu	Yan Yan, Qi Li, and Lin Meng
102	孟 林	Improvement in Road Crack Detection Based on Multiple Attention Mechanisms	2025 年 9 月	The 7th International Symposium on Advanced Technologies and Applications in the Internet of Things (ATAIT 2025)、 日本:Kusatsu	Junqing Wang, Qi Li and Lin Meng
103	孟 林	Lightweight YOLOX-Based Object Detection with Structural Pruning for Edge Device Deployment	2025 年 9 月	The 7th International Symposium on Advanced Technologies and Applications in the Internet of Things (ATAIT 2025)、 日本:Kusatsu	Mikihisa Ishino and Lin Meng
104	孟 林	Token Pruning within the Attention Mechanism for Efficient Vision Transformers	2025 年 9 月	The 7th International Symposium on Advanced Technologies and Applications in the Internet of Things (ATAIT 2025)、 日本:Kusatsu	Shuto Kusaki, Ryuto Ishibashi and Lin Meng
105	孟 林	Inpainting of Ancient Chinese Character Rubbings via Generative Adversarial Network	2025 年 9 月	23rd International Conference on Image Analysis and Processing(ICIAP2025)、 イタリア:Rome, Italy	Xiangheng Wang, Hayata Kaneko and Lin Meng,
106	孟 林	A hybrid MLP-Attention physics-informed neural network for robust SOH estimation of lithium-ion batteries	2025 年 9 月	the 2025 International Conference on Advanced Mechatronic Systems (ICAMechS 2025)、 中華人民共和國:Xi'an	Ryuto Tanigawa, Yingrui Geng, Hayata Kaneko, and Lin Meng
107	孟 林	A Review of UAV-Based Artificial Intelligence Applications in Agriculture	2025 年 9 月	the 2025 International Conference on Advanced Mechatronic Systems (ICAMechS 2025)、 中華人民共和國:Xi'an	Yexin Zhang, Zhenling Su, Lin Meng
108	孟 林	FS-YOLO: An efficient metallic crack detection framework	2025 年 9 月	the 2025 International Conference on Advanced Mechatronic Systems (ICAMechS 2025)、 中華人民共和國:Xi'an	Zhongyu Wang, Zhenling Su, and Lin Meng
109	孟 林	SAAFNet: Self-Adaptive Attention Fusion Network for Single Image Deraining	2025 年 9 月	the 2025 International Conference on Advanced Mechatronic Systems (ICAMechS 2025)、 中華人民共和國:Xi'an	Kento Ichihara, Ryuto Ishibashi, and Lin Meng
110	孟 林	YOLO Training Made Simple: A Unified	2025 年 9 月	the 2025 International Conference on Advanced Mechatronic Systems	Runqian Zhang, Yifei Ge, Lin Meng

		Pipeline with Mobile Annotation and Web User Interface		(ICAMechS 2025)、 中華人民共和国:Xi'an	
111	孟 林	SIMD-CP: SIMD with Redundant Bits Compression and Mixed-Precision Packing for Quantized DNNs,	2025 年 9 月	the 2025 International The International Conference on Hardware/Software Codesign and System Synthesis (CODES+ISSS)、 台湾:Taipei	Hayata Kaneko, and Lin Meng
112	孟 林	Enhanced Biogas Production Prediction Using BiogasNET with BiogasGAN	2025 年 10 月	2024 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC)、 オーストリア:Vinn	Yingrui Geng, Zenghui Wang, Mingcong Deng, and Lin MENG
113	孟 林	Multi-Scale Token Pruning in Mask2Former for Semantic Segmentation	2025 年 10 月	2024 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC)、 オーストリア:Vinn	Ryuto Ishibashi, Mingcong Deng, and Lin MENG,
114	孟 林	Cross Attention を用いた ViViT による行動認識精度の向上	2025 年 10 月	IEE C 部門 制御研究会、 日本:岡山大学	東 昂巳, 孟 林
115	孟 林	Development of a Real-Time Human Detection System Using RISC-V Equipped Nano Drones	2025 年 10 月	IEE C 部門 制御研究会、 日本:岡山大学	Yexin ZHANG, Zhenling SU, Lin MENG
116	孟 林	量子インスパイア型最適化アルゴリズムに関する詳細の調査	2025 年 10 月	IEE C 部門 制御研究会、 日本:岡山大学	Yifan XU, Mengtao WANG, and Lin MENG
117	孟 林	UNet++と Restormer による損傷崩し字の 2 段階修復	2025 年 12 月	IEE C 部門 制御研究会、 日本:東京農工大学	井本 佑一, 吉津 侑哉, 藤田 佑樹, 孟 林
118	孟 林	ナンドローンに向けた物体検出の軽量化	2025 年 12 月	IEE C 部門 制御研究会、 日本:東京農工大学	山口 航平, SU ZhenLing , MENG Lin
119	孟 林	マルチ LSTM 分析モデルを用いたニューステキストの分類	2025 年 12 月	IEE C 部門 制御研究会、 日本:東京農工大学	Yue Xinzhe, Li Qi, 孟 林
120	孟 林	マルチスケール特徴融合を用いた軽量ステレオマッチング手法	2026 年 1 月	スマートシステムと制御技術シンポジウム 2026、日本:倉敷市民会館	LI Qi, 孟 林
121	八重樫 文	Designing For Innovation: The Positive Approach of In-House Designers in a Japanese Corporation	2025 年 9 月	The 26th International CInet conference、スイス:Lucerne, Switzerland	Isobe, M. and Yaegashi, K.
122	矢野 桂司	バーチャル京都の軌跡と未来 — 地理情報による都市の可視化と継承	2025 年 7 月	一般社団法人地理情報システム学会 関西支部 2025 年度支部学術総会、日本:関西大学 梅田キャンパス	矢野桂司
123	矢野 桂司	Building a GIS-Based Place Name Dictionary: Advancing Spatial Humanities with MapKurator and Historical Topographic Maps of Japan	2025 年 8 月	32nd International Cartographic Conference、 カナダ:Vancouver, BC, Canada	Keiji Yano, Ryo Kamata, Kazumasa Hanaoka
124	矢野 桂司	「バーチャル京都」による歴史都市の時空間復原と空間人文学の展開	2025 年 9 月	韓国日本語教育学会 第 68 回 国際学術発表大会、韓国:全南大学校	矢野桂司
125	矢野 桂司	Constructing a Historical Gazetteer of Japan: GeoAI Extraction from 1:50,000 Old-Edition Topographic Maps	2025 年 11 月	The 17th Japan-Korea-China Joint Conference on Geography、日本:Kyoto Terra	YANO K., KAMATA R., HANAOKA K.
126	矢野 桂司	Past urban landscapes overlaying the map	2025 年 12 月	25th CODH Seminar Historical Photographs and Urban Scape、日本:National Institute of Informatics (Access) Online: Zoom, Online	Keiji Yano

127	矢野 桂司	「立命館大学アート・リサーチセンターにおける DH 研究・教育の展開：文部科学省国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点 (ARC-iJAC)」」	2025 年 12 月	仏教学とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム DX・AI 時代における人文学の意義と研究基盤の構築、日本：東京国際フォーラム	矢野桂司
128	矢野 桂司	立命館大学アート・リサーチセンターにおける ARC リサーチスペースの開発と運用	2025 年 12 月	仏教学とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム DX・AI 時代における人文学の意義と研究基盤の構築、日本：東京国際フォーラム	矢野桂司・山内啓之・堀池理生・美龍硬幸・鎌田 遼・赤間 亮
129	矢野 健一	土器量変化を利用した人口推計の課題ー京都大学構内遺跡群の事例研究ー	2025 年 4 月	考古学研究会第 71 回総会・研究集会、日本：岡山市	矢野健一・Corey Tyler NOXON
130	矢野 健一	葛籠尾崎湖底遺跡における土器分布調査成果の概要	2025 年 7 月	日本文化財科学会第 42 回大会、日本：福岡市・西区	矢野健一（立命館大学）、熊谷道夫（同左）、西田祐也（九州工業大学）、杉松治美（東京大学）、柏谷健二（金沢大学）、井上昇悟（いであ株式会社）、宮川亮（九州工業大学院生）、Corey Tyler NOXON(立命館大学)
131	矢野 健一	人口論からみる地域社会	2026 年 3 月	関西縄文文化研究会 第 20 回記念研究集会 関西縄文時代の集落と地域社会、日本：京都市左京区	矢野健一
132	李 亮	Transparent Visualization with Dynamic Shading for 3D Scanned Point Clouds of Cultural Heritage Objects	2025 年 4 月	2025 IEEE 18th Pacific Visualization Conference (PacificVis 2025)、Taiwan:Chang Yung-fa Foundation International Convention Center in Taipei	Hatsuki Nojiri, Satoshi Takatori, Kyoko Hasegawa, Liang Li, Michael Feener, Keiji Yano, Satoshi Tanaka
133	李 亮	マルチスケール主成分分析に基づく 3 次元計測データのエッジ強調可視化	2025 年 7 月	可視化情報学会 The 2nd Japan Visualization Symposium (JapanVis 2025)、日本：明治大学	岡島智弥, 鷹取慧, 李亮, 田中覚
134	李 亮	Digital Heritage in 3D: Reconstruction and Visualization	2025 年 7 月	The 3th International Workshop on Technology and Innovation for Human Life (TechIn 2025)、日本：Osaka	Liang Li
135	李 亮	Visualization of Vortex Distribution Near Osaka Bay Based on Normalized Velocity Vectors	2025 年 9 月	The 44th JSST Annual International Conference on Simulation Technology (JSST2025)、日本：Aomori	Yihang Chen, Liang Li, Satoshi Takatori, Kyoko Hasegawa, Hideo Miyachi, Satoshi Nakada, Shintaro Kawahara, and Satoshi Tanaka
136	李 亮	3D Reconstruction and Visual Analysis of Large-scale Cultural Heritage	2025 年 9 月	DUT-RTU Joint Workshop on Information Science and Engineering 2025、中国：Dalian	Liang Li
137	李 亮	Entropy-Based Visualization of Missing Regions in 2.5D Cultural Heritage Point Clouds	2025 年 10 月	24th Asia Simulation Conference (AsiaSim2025)、シンガポール：Singapore	Qingyu Mao, Liang Li, Satoshi Tanaka
138	飯塚 公藤	3D スキャナを用いた水辺景観データ取得の実践	2025 年 7 月	位置情報データビジネスセミナー、	
139	飯塚 公藤	舟運の利用可能性を考えるーかわまちづくりの普及・推進に向けてー	2025 年 8 月	リバーフロント研究所（意見交換会）、	
140	飯塚 公藤	近代河川舟運に関する歴史 GIS 研究ー淀川流域を事例にー	2025 年 11 月	神奈川大学非文字資料研究センター 第 7 班「海とみなとの運河研究ー横浜とアジアの運河」研究会、	
141	飯塚 公藤	河川・運河における舟運利用ー水都大阪・ロンドンを事例にー	2026 年 3 月	「運河と町並み 横浜と大阪・ロンドン」シンポジウム（神奈川大学非文字資料研究センター）、	
142	小倉 拓郎	教科横断型の防災学習を想定した児童の地震災害リスク認識の基礎調査ー兵庫県淡路市の小学校に	2025 年 5 月	JpGU2025、幕張メッセ	酒井 藤太, 小倉 拓郎, 小林 勇介

		おける事例ー			
143	小倉 拓郎	LiDAR データを用いた崩壊地における数十年間の植生回復の分析ー滋賀県愛知川流域の花崗岩斜面における事例ー	2025 年 5 月	JpGU2025、幕張メッセ	木下七海, 八反地 剛, 小倉拓郎, 水野敏明, 小島永裕
144	小倉 拓郎	珠州市若山川沿いに生じた断層の掘削調査と周辺の露頭観察	2025 年 5 月	JpGU2025、幕張メッセ	安江 健一, 平松 良浩, 小川 智史, 山崎 伶士, 廣瀬 健大朗, 三浦 知督, 白濱 吉起, 杉戸 信彦, 向吉 秀樹, 藤田 奈津子, 永田 秀尚, 立石 良, 道家 涼介, 小倉 拓郎, 打木 弘
145	小倉 拓郎	Developing 3D environmental data utilization platform in Human Geosciences: A preview	2025 年 5 月	JpGU2025、幕張メッセ	早川裕弐, 小倉拓郎, 齋藤 仁, 下徳大祐, 小林博樹
146	小倉 拓郎	能登半島北西部, ハヶ川河口部において 2024 年能登半島地震後に生じた下刻	2025 年 5 月	JpGU2025、幕張メッセ	高橋尚志, 小倉拓郎, 飯塚浩太郎, 岩佐佳哉, 早川裕弐, 青木賢人, 松多信尚
147	小倉 拓郎	Avatar Movement as Learning Data: Quantifying Immersive Geography Fieldwork in the Metaverse	2025 年 6 月	2nd Geogames Symposium: Connecting Communities through Games and Play、アイルランド	Kotaro Iizuka, Hiroyuki Yamauchi, Takuro Ogura
148	小倉 拓郎	創作体験活動を導入した地形学習に関するオンライン教員研修コンテンツの開発	2025 年 8 月	2025 年度日本地理教育学会第 75 回大会、筑波大学	小倉拓郎, 中村洋介, 佐藤凌太, 大西美佐歩, 古家美和, 笈田太郎, 濱野 清, 山内啓之, 早川裕弐, Vincent Tong, 鹿野友渚, 田村裕彦, 小林勇介, 島崎遥名
149	小倉 拓郎	滋賀県愛知川流域の猿尾を対象に試作した VR 教材の利点と課題	2025 年 9 月	日本地理学会 2025 年秋季学術大会、弘前大学	山内啓之, 小倉拓郎, 島本多敬, 水野敏明
150	小倉 拓郎	反転立体模型を用いた粘土工作による地形の理解: ひらめき☆ときめきサイエンスでのアウトリーチ実践例	2025 年 9 月	日本地理学会 2025 年秋季学術大会、弘前大学	早川裕弐, 小倉拓郎
151	小倉 拓郎	STEAM 教育の概念を活用した GIS に関する教員研修プログラムの開発	2025 年 9 月	日本地理学会 2025 年秋季学術大会、弘前大学	小倉拓郎, 遠藤未来, 山内啓之, 小池紗也香, 吉水裕也
152	小倉 拓郎	初等・中等教育の地学・地理の教科書における自然学習・防災学習の分析ー地圏・気圏学習の連携性に着目してー	2025 年 9 月	日本地理学会 2025 年秋季学術大会、弘前大学	鹿野友渚, 小倉拓郎
153	小倉 拓郎	19 世紀の河畔林の水制工「猿尾」による洪水減災効果ー滋賀県愛知川扇状地を事例としてー	2025 年 11 月	日本リスク学会第 38 回年次大会、大阪大学	水野敏明, 小倉拓郎, 島本多敬, 山内啓之, 八反地 剛, 濱口貴仁, 小林亜美, 角川咲江, 片山大輔, 小林勇介
154	小倉 拓郎	1970 年代に表層崩壊の発生した集水域における水路頭の地形解析ー滋賀県愛知川流域の事例ー	2025 年 11 月	日本地形学連合 2025 年秋季学術大会、東京理科大学	大津眞奈, 木下七海, 八反地 剛, 小倉拓郎, 水野敏明
155	小倉 拓郎	3D プリンタで作成した地形模型を活用した地形図読図の授業実践と効果検証ー広島市八木地区の土石流扇状地の事例ー	2025 年 11 月	日本地形学連合 2025 年秋季学術大会、東京理科大学	碓井河月, 小倉拓郎, 小林勇介
156	小倉 拓郎	河川地形に関する高校生の誤概念: 紙粘土による地形の 3 次元表現を通じて	2025 年 11 月	日本地形学連合 2025 年秋季学術大会、東京理科大学	鹿野友渚, 小倉拓郎, 中村洋介

157	小倉 拓郎	表層崩壊の深さが植生回復に及ぼす影響—2009 年山口県防府市の表層崩壊の事例—	2025 年 11 月	日本地形学連合 2025 年秋季学術大会、東京理科大学	宮崎耕二郎, 八反地 剛, 小倉拓郎, 梶田太陽, 土志田正二
158	小倉 拓郎	北海道胆振東部地震による斜面崩壊発生後の植生回復と地形接続性	2025 年 11 月	日本地形学連合 2025 年秋季学術大会、東京理科大学	早川裕弐, 速水将人, 中田康隆, 小倉拓郎
159	小倉 拓郎	伝統的治水施設の復原に資する学際的調査手法の比較—滋賀県愛知川・猿尾の事例—	2025 年 11 月	日本地形学連合 2025 年秋季学術大会、東京理科大学	小倉拓郎, 島本多敬, 水野敏明, 山内啓之, 八反地 剛, 濱口貴仁, 片山大輔
160	小倉 拓郎	能登半島地震 (2024 年) で隆起した岩石海岸にみられる侵食微地形のタイプ・分布と地質条件	2025 年 11 月	日本地形学連合 2025 年秋季学術大会、東京理科大学	松岡憲知, 須田 陸, 小倉拓郎
161	小倉 拓郎	Development of an Educational Geogame Using Three-Dimensional Spatial Information: Toward the analysis of students' learning behavior in the Metaverse	2025 年 11 月	The 17th Japan-Korea-China Joint Conference on Geography, Kyoto, Japan.	Hiroyuki Yamauchi, Kotaro Iizuka, Takuro Ogura
162	小倉 拓郎	Evaluating the effectiveness of disaster prevention education based on a cross-disciplinary curriculum: A case study of sixth graders at an elementary school in Awaji City, Hyogo Prefecture, Japan	2025 年 11 月	The 17th Japan-Korea-China Joint Conference on Geography, Kyoto, Japan.	Tota Sakai Takuro Ogura Kiyoshi Hamano
163	小倉 拓郎	Visual and tactile engagement by clay work of 3D landforms for outreach practices in geomorphology	2025 年 11 月	The 17th Japan-Korea-China Joint Conference on Geography, Kyoto, Japan.	Yuichi S. Hayakawa Takuro Ogura
164	小倉 拓郎	19 世紀の愛知川中下流域における土堤・石積堤の種類と治水上の役割—明治初期の村絵図による検討—	2025 年 11 月	2025 年人文地理学会、同志社女子大学	島本多敬, 小倉拓郎, 水野敏明, 山内啓之, 八反地 剛, 濱口貴仁, 小林亜美, 角川咲江, 片山大輔, 小林勇介
165	小倉 拓郎	Educational dissemination of traditional flood-related knowledge using the Eco-DRR digital database	2026 年 2 月	11th IAG International Conference on Geomorphology、クライストチャーチ, ニュージーランド	Takuro Ogura, Hiroyuki Yamauchi, Kazuyuki Shimamoto, Toshiaki Mizuno, Tsuyoshi Hattanji, Nanami Kinoshita, Takahito Hamaguchi, Ami Kobayashi, Sakie Sumikawa, Daisuke Katayama
166	小倉 拓郎	From submarine erosion to subaerial weathering: The 2024 Noto Earthquake exposed various miniature cavernous forms on uplifted rocky coasts	2026 年 2 月	11th IAG International Conference on Geomorphology、クライストチャーチ, ニュージーランド	Norikazu Matsuoka Riku Suda Takuro Ogura
167	小倉 拓郎	Rapid upstream migration of the knickpoint according to the co-seismic uplift of 2024 Noto Peninsula Earthquake, Japan	2026 年 2 月	11th IAG International Conference on Geomorphology、クライストチャーチ, ニュージーランド	Takayuki Takahashi, Takuro Ogura, Yoshiya Iwasa, Kotaro Iizuka, Yuichi, S. Hayakawa, Tatsuto Aoki, Nobuhisa Matta
168	小倉 拓郎	Rock controls on sea caves along Japanese rocky coasts	2026 年 2 月	11th IAG International Conference on Geomorphology、クライストチャーチ, ニュージーランド	Norikazu Matsuoka, Takuro Ogura, Kanami Shinohara, Atsushi Ito, Keita Ushigome, Yoshinori Kodama

169	小倉 拓郎	The geomorphological impacts of landslides and their associated hazards	2026 年 2 月	11th IAG International Conference on Geomorphology、クライストチャーチ、ニュージーランド	Yuichi S. Hayakawa, Masato Hayamizu, Yasutaka Nakata, Takuro Ogura
170	小倉 拓郎	Topographic control on debris-supply rates from steep slopes: Estimation based on UAV-LiDAR DEMs of an abandoned road surface	2026 年 2 月	11th IAG International Conference on Geomorphology、クライストチャーチ、ニュージーランド	Shunsuke Harada, Tsuyoshi Hattanji, Takuro Ogura, Yuichi S. Hayakawa
171	小倉 拓郎	Creating learning materials for geography education in regions affected by the 2024 Noto Peninsula Earthquake	2026 年 2 月	11th IAG International Conference on Geomorphology、クライストチャーチ、ニュージーランド	Takuro Ogura, Hiroyuki Yamauchi, Tatsuto Aoki, Nobuhisa Matta, Kotaro Iizuka, Yoshiya Iwasa, Takayuki Takahashi, Kiyomi Hayashi, Tsuyoshi Hattanji, Norikazu Matsuoka, Takashi Oguchi
172	小倉 拓郎	精密測量と重力探査から得られた広島市安佐北区高松山における土石流扇状地の土砂体積量の推定	2026 年 3 月	日本地理学会 2026 年春季学術大会、法政大学	高場智博, 楮原京子, 住田達哉, 太田 麗, 松多信尚, 小倉拓郎, 今西将文
173	小倉 拓郎	能登半島北西部、ハヶ川河口付近における 2024 年能登半島地震後 1 年間の地形変化	2026 年 3 月	日本地理学会 2026 年春季学術大会、法政大学	高橋尚志, 小倉拓郎, 飯塚浩太郎, 岩佐佳哉, 早川裕弐, 青木賢人, 松多信尚
174	金子 貴昭	村上勘兵衛文書に見る仏書出版の諸相	2025 年 11 月	第七十五回仏教史学会学術大会、龍谷大学	
175	佐古 愛己	平安時代の人事・昇進制度からみる日本社会の特質	2026 年 3 月	第 33 回アジア・アフリカ諸国の史料学と歴史学に関する国際学術会議、サンクトペテルブルク大学	
176	佐藤 弘隆	京都祇園祭・武者神役の歴史と行列の復興	2025 年 6 月	京都新聞マーケティング・フォーラム、	
177	佐藤 弘隆	地域における歴史文化資源のデジタル化：都市空間と祭礼文化	2025 年 9 月	日本建築学会都市史小委員会拡大委員会、	
178	佐藤 弘隆	豊橋祇園祭の創造性を支える「まちなか」の求心力	2025 年 12 月	三河民俗談話会例会、愛知大学	
179	佐藤 弘隆	GIS でみる豊橋祇園祭の継承システム	2026 年 2 月	第 13 回越境地域政策研究フォーラム、愛知大学	
180	鹿内 菜穂	姿勢制御における開眼・閉眼の影響—乱数生成課題と重心動揺計測の関係から—	2025 年 8 月	日本応用心理学会第 91 回大会、文京区、東洋大学	板垣文彦, 鹿内菜穂, 須永範明
181	鹿内 菜穂	重心動揺研究とワーキングメモリ	2025 年 8 月	日本応用心理学会第 91 回大会、文京区、東洋大学	板垣文彦, 須永範明, 和田万紀, 鹿内菜穂
182	鹿内 菜穂	Effects of Short-Term Yoga on Postural Stability in Ballet Dancers, Athletes, and Students	2025 年 9 月	International Association for Dance Medicine & Science, Las Vegas	Nao Shikanai
183	鹿内 菜穂	三次元的に変形した長方形を用いた線分二等分課題における前庭機能障害と左方偏位	2025 年 12 月	第 22 回日本ワーキングメモリ学会大会、世田谷区、日本大学	鴨頭輝, 鹿内菜穂, 伊藤憲治, 須永範明, 板垣文彦
184	菅沼 明正	Presentation of Unpublished Documents of Japan National Railways in the Prewar Period and the Practice of their Digitisation	2025 年 9 月	The Fourth EAJS (European Association for Japanese Studies) Conference in Japan、東北大学	
185	菅沼 明正	なぜ天皇は「神」となり、人々は「聖地」に向かったのか —平山昇『戦前日本の「聖地」 ツーリズム—キリスト・日蓮・皇室』(NHK ブックス、	2026 年 3 月	鉄道史学会関西例会、	

		2025 年) を読むー			
186	瀬戸 寿一	Trajectools による人流解析データの可視化分析の試行	2025 年 7 月	FOSS4G 2025 KANSAI、大阪公立大学 I-site なんば	
187	蟬塚 咲衣	博物館における景観写真のデジタルアーカイブを通じた市民協働の実践	2025 年 5 月	2025 年度北海道民族学会第 1 回研究会、北海道	
188	蟬塚 咲衣	小樽の歴史と炭鉄港—つながるモノ・文化・技術—	2025 年 8 月	炭鉄港市町村議員連盟研修会 in 小樽、小樽市	
189	蟬塚 咲衣	小樽のおもいで未来へプロジェクト第 2 弾	2025 年 10 月	ミュージアムラウンジ (小樽市総合博物館)、小樽市	
190	蟬塚 咲衣	デジタルアーカイブと GIS の連携による博物館機能の拡張可能性—小樽市総合博物館所蔵『兵庫写真コレクション』の事例—	2025 年 11 月	第 34 回地理情報システム学会学術研究発表大会、富山大学	
191	蟬塚 咲衣	小樽市総合博物館「小樽学」の進展を支える古写真データベースの構築と活用に関する研究	2026 年 2 月	立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」 2025 年度 成果発表会、立命館大学	
192	DAVIS Julie Nelson	Ukiyo-e Painting and the Long Shadow of the Shunpōan Incident	2025 年 4 月	University of Pennsylvania Colloquium、米国・フィラデルフィア	
193	DAVIS Julie Nelson	Ukiyo-e Painting and the Long Shadow of the Shunpōan Incident	2026 年 1 月	Sophia University Institute of Comparative Culture Lecture、上智大学	
194	永塚 憲治	明代日用類書の春葉について—『新刻天下四民便覧三台万用正宗』を中心に—	2025 年 4 月	京大人文科学研究所「中国生活文化の思想史」班研究会、	
195	永塚 憲治	新出の房中書『秘事養生伝』について	2025 年 11 月	第 126 回日本医史学会総会学術大会、奈良女子大学	
196	橋本 真佐子	『方寸』と創作版画運動—明治末日本における美術・文学・技術の融合—	2025 年 7 月	第 24 回 ICLA 国際大会、韓国・ソウル、東国大学校	
197	畑 恵里子	『落窪物語』の「盗人」たち	2025 年 4 月	物語研究会例会、日本大学	
198	畑 恵里子	浦島伝説の地の変遷	2025 年 7 月	日本文藝学会大会「特集 文芸と土地—場をめぐる力学」、追手門学院大学	
199	畑 恵里子	神話的世界の浦島伝説	2025 年 11 月	シンポジウム「北欧と日本—神話・伝承・民話（昔話）—」、国際基督教大学	
200	BINCSIK Monika	Recasting the Past: The Art of Chinese Bronzes, 1100–1900	2025 年 5 月	Metropolitan Museum of Art (ニューヨーク)、	
201	PELLECCHIA Diego	遊戯するカオス—「乱能」の社会的意義をめぐって	2025 年 6 月	IFTR - International Federation for Theatre Research (Asian Theatre Working Group) Köln、ケルン、ドイツ	
202	PELLECCHIA Diego	能楽の面—儀礼と表象のあいだ	2025 年 11 月	Università degli studi Napoli L'Orientale、ナポリ、イタリア	
203	PELLECCHIA Diego	能の実践における国際的経験と異文化間対話	2025 年 11 月	Università degli Studi di Napoli L'Orientale、ナポリ、イタリア	
204	PELLECCHIA Diego	能楽への旅—東洋と西洋を結ぶ道程	2025 年 11 月	Istituto giapponese di cultura - Roma、ボローニャ、イタリア	
205	PELLECCHIA Diego	イタリアにおける能楽の受容	2025 年 12 月	Università di Bologna、ボローニャ、イタリア	
206	PELLECCHIA Diego	「乱能」における転覆と省察	2025 年 12 月	Giornata di studi su Nicola Savarese (DAMS Università Roma Tre)、ローマ、イタリア	

207	PELLECCHIA Diego	能における物質文化	2026 年 3 月	ヴェネツィア東洋美術館における能楽、ヴェネチア、イタリア	
208	丸川 雄三	連想検索と民具のミカタ	2025 年 5 月	第 678 回みんぱくウィークエンド・サロンー研究者と話そう、第 678 回みんぱくウィークエンド・サロンー研究者と話そう	
209	丸川 雄三	文化遺産オンライン	2025 年 11 月	第 73 回全国博物館大会・出展ブースプレゼンテーション、大阪市中心公会堂大集会室	
210	丸川 雄三	博物館資料との出会いを広げる展示場情報システムの開発	2025 年 11 月	アート・ドキュメンテーション学会第 18 回秋季研究集会、印刷博物館（東京）	
211	丸川 雄三	協働による仏教壁画デジタルライブラリの構築と学際的研究への活用	2025 年 12 月	仏教学とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム「DX-AI 時代における人文学の意義と研究 基盤の構築」、東京国際フォーラム	
212	余語 琢磨	都市工芸・京焼における近代の陶工たちー石田製陶所資料からたまた「職人」と労働運動ー	2025 年 6 月	日本生活学会第 52 回研究発表大会、福島学院大学	
213	RAMBELLI FABIO	Divine Harmonies: Gagaku and Music in Buddhism	2025 年 9 月	University of Toronto Public Lecture、University of Toronto	Shinryu Ono

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第 146 回国際 ARC セミナー:ARC の VR 博物館構想:山内啓之/立命館大学衣笠総合研究機構	ARC	2025 年 4 月	34	
2	第 147 回国際 ARC セミナー:Mining the Archive for Collecting Histories of Korean Art:Charlotte Horlyck/ロンドン大学 SOAS	ARC	2025 年 5 月	48	
3	第 148 回国際 ARC セミナー:ZEN 大学のデジタルアーカイブ研究所について:宮田悠史・細井浩一/ZEN 大学	ARC	2025 年 5 月	42	
4	第 149 回国際 ARC セミナー:知の森『双六』に遊ぶー面白さ・DB・歴史ー:吉田修 Yoshida Osamu/築地双六館	ARC	2025 年 6 月	38	
5	第 150 回国際 ARC セミナー:古典籍データベースが可能にする研究:江戸時代後半の画譜と博物図譜の重なり合いに関して:Chelsea Foxwell/シカゴ大学	ARC	2025 年 6 月	52	
6	第 151 回国際 ARC セミナー:「デジタルヒューマニティーズの新たな展開へ」:後藤真/国立歴史民俗博物館	ARC	2025 年 7 月	53	
7	第 152 回国際 ARC セミナー-in English: “Fit to scale: Photogrammetry project considerations for all shapes and sizes” (in Japanese if available: 「スケールに応じて:多様な形とサイズに対応する写真測量プロジェクトの検討」):Corey Noxon/立命館グローバル・イノベーション研究機構	ARC	2025 年 7 月	26	
8	第 153 回国際 ARC セミナー:考古学×デザイン・アートの挑戦 Archaeology × Design & Art: A Challenge:中村 大 (専門分野:デザイン・アートと歴史)	ARC	2025 年 10 月	36	
9	第 154 回国際 ARC セミナー:コネクテッドワールドのデザイン Design in the Connected World:大島 陽 (専門分野:デジタルデザイン表現)	ARC	2025 年 10 月	27	
10	第 155 回国際 ARC セミナー:文化財プロジェクションマッピングとマンガ AI Cultural heritage video-mapping and Manga AI:迎山 和司 (専門分野:デジタルアート)	ARC	2025 年 11 月	35	
11	第 156 回国際 ARC セミナー:フォトグラメトリによる過去の都市景観のデジタルアーカイブ Digital Archive of Past Urban Landscape Using Photogrammetry:桐村 喬 (専門分野:地理情報科学・歴史 GIS・3D GIS)	ARC	2025 年 11 月	29	
12	第 157 回国際 ARC セミナー:展覧会から展覧会へー太田喜二郎研究を例にー From Exhibition to Exhibition: A Case Study of Ota Kijiro:植田 彩芳子 (専門分野:アートマネジメント、美術史)	ARC	2025 年 12 月	26	
13	第 158 回国際 ARC セミナー:つながりのデザインー日本の伝統木版画に見えてくる時間・人・技・素材 Designing Connectives-- Time, People, Skills, and Materials as Seen in Japanese Traditional Woodblock Printing:松葉 涼子 (専門分野:美術・工芸・造形文化)	ARC	2025 年 12 月	29	

14	第159回国際ARCセミナー:エジプトと日本、交流の軌跡 Egypt and Japan: A History of Exchange:彬子女王	ARC	2026年1月	55	
15	国際合同コロキウム:The 3rdJoint Colloquium of the Art Research Center (ARC), Ritsumeikan University & Center for Japanese Studies (CJS), University of California, Berkeley:	UCB	2025年9月	17	Center for Japanese Studies (CJS), University of California, Berkeley:
16	ARC Days 2025:2日間	ARC	2025年8月	97	
17	令和7年度 大学における芸術家等育成事業 国際シンポジウム:「伝統木版画の総合アーカイブ構築とアート連携を通じた人材育成支援プログラム」:	ARC	2025年12月	43	
18	令和7年度 大学における芸術家等育成事業 国際シンポジウム:「和紙と木版画:江戸・明治から現代、そして世界へ」:	ARC	2026年2月	103	
19	2025年度 成果発表会:2日間	ARC	2026年2月	142	
20	芸術・思想におけるメランコリーの現在:芸術・思想におけるメランコリーの現在:	ARC	2025年11月	25	
21	公開研究会:絵入狂言本と元禄歌舞伎研究の復権:	ARC	2025年6月	20	絵入狂言本研究会
22	合同研究会:ARC and CCMTW Joint Meeting 2025 - Exploring Emerging Spatial Technologies in Digital Humanities Research and Education:	ARC	2025年7月	15	
23	公開ワークショップ:家の中の芸術と芸術の家族的継承:	ARC	2025年10月	30	
24	令和7年度 大学における芸術家等育成事業 ワークショップ:「和紙」生産地を巡回する木版画アートワークショップ:	ARC	2025年10月	30	
25	令和7年度 大学における芸術家等育成事業 ワークショップ:和紙生産をとりまく課題と木版画技術の映像・資源アーカイブ:	ARC	2026年1月	3	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	赤間 亮	「アートをエンターテインメントする」	MBS ラジオ 立命館 presents Social Impact Academy	2025年8月11日～8月15日
2	西浦 敬信	「快適な『音の未来』をつくる最前線」	MBS ラジオ 立命館 presents Social Impact Academy	2025年8月18日～8月22日
3	福田一史	<博報堂DY ミュージック&ピクチャーズ・立命館大学アート・リサーチセンター>アニメーションのジャンル統合化と内容変遷に関する共同研究を開始	プレスリリース	2025年10月
4	赤間 亮	川島織物セルコン、伝統織物の知的基盤形成に向けた共同研究を開始 ― デジタルアーカイブによる文化資源の保全と技術継承を加速 新学部（デザイン・アート学部）を軸とした地域連携・人材育成の広がりにも注目―	プレスリリース	2025年12月
5	赤間 亮	日本文化の研究加速に向け、国を超えて2大学が協働 立命館大学アート・リサーチセンターとUCLAの共同プロジェクト 日本文化資源の大規模デジタルアーカイブを初公開	プレスリリース	2026年2月
6	山内啓之	滋賀県東近江市で伝統的な治水施設「猿尾（さるお）」を再発見 ―ドローン測量、歴史資料、インタビュー、フィールドワークの成果を統合―	プレスリリース	2025年6月
7	山内啓之	令和6年能登半島地震で変化した地形の高精細3Dデータを公開 ―災害・地形の基礎研究や環境教育・防災教育の教材として活用可能―	プレスリリース	2025年8月
8	西浦 敬信	サラウンドチェア	NHK「ぐるっと関西おひるまえ」	2026年1月
9	西浦 敬信	アクティブノイズコントロール	NHK「チコちゃんに叱られる！」	2026年3月
10	赤間 亮	日本の表現文化資源のアーカイブについて考える共同研究締結記念 特別講義 『「アート・エンターテインメント」 学ぶ、創る、残す～伝統から現代まで～』	ダウンゴ ニコニコ生放送	2025年7月

11	Seifman Travis	"History, Identity, and Cultural Revival in the Ryukyu Islands"	RADIANT 英語版	2026 年 2 月
12	Seifman Travis	Editing LAND: A conversation with Hirofumi Satoru and Komatsu Yuma, editors for Weekly Morning, Kodansha Ltd	Nicole Coolidge Rousmaniere 等 (編)、 <i>The Art of Manga</i> , 展示図録, Fine Arts Museums of San Francisco, pp325-326	2025 年 9 月
13	Seifman Travis	"History, Identity, and Cultural Revival in the Ryukyu Islands"	RADIANT 英語版	2026 年 2 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	赤間亮、立命館大学 アート・リサーチセ ンター	アート・ドキュメンテーション 学会	学会賞(野上紘子記念ア ート・ドキュメンテー ション学会)	施設としての受賞	2025 年 6 月
2	李 亮	可視化情報学会	優秀発表賞	マルチスケール主成分分析 に基づく 3 次元計測データ のエッジ強調可視化	2025 年 7 月
3	山内 啓之	2nd Geogames Symposium 2025 Organizing Committee	Best Paper Award (2nd Geogames Symposium 2025: Connecting Communities through Games and Play)	Avatar Movement as Learning Data: Quantifying Immersive Geography Fieldwork in the Metaverse	2025 年 6 月
4	山内 啓之	地理情報システム学会	国土交通大臣賞, 2025 年度 GIS 教育実践アワ ード初等中等教育にお ける GIS を活用した授 業に係る優良事例表彰	地形×創作×GIS :GIS と創 作表現活動を往還・融合し た地理学習の実践	2025 年 11 月
5	田中 寛・李 亮	SINT4CH 2025 Organizing Committee	Best Paper Award (SINT4CH)	Enhanced 3D Monocular Reconstruction of Relief- Type Cultural Heritage via an Edge-Matching Module	2025 年 6 月
6	THAWONMAS Ruck	The 14th IEEE Global Conference on Consumer Electronics	The IEEE GCCE 2025 Excellent Paper Award (Outstanding Prize)	Sightless Showdown: a Comparative Study of AI and Human Performance Without Vision in a Fighting Game	2025 年 9 月
7	THAWONMAS Ruck	The 14th IEEE Global Conference on Consumer Electronics	The IEEE GCCE 2025 Oral Presentation Award	Familiarity Vs Performance: the Link Between Gaming Experience and Audio Recognition	2025 年 10 月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	赤間 亮	欧米に所蔵される絵入版本・浮世絵の デジタル型カタログとオンライン 公開	基盤研究(B)	2024 年 2 月	2028 年 3 月	代表
2	稲葉 光行	仮想空間を媒介とした日本文化に関す る状況学習支援環境に関する総合的研 究	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
3	加藤 政洋	米軍統治下の沖縄における〈消費の空 間分化〉に関する社会地理学的研究	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
4	木立 雅朗	近代産業遺産の民俗考古学的研究-京都 における伝統工芸の総合的研究と地域 連携-	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
5	小寺 未知留	レナード・マイヤーの音楽情動論・様 式変遷論と音楽研究史の学際性	若手研究	2023 年 4 月	2028 年 3 月	代表
6	斎藤 進也	学術成果の発信のための仮想展示環境 に関する研究	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
7	鈴木 桂子	「きもの」文化から視るグローバル・ ヒストリー—染色技術・デザイン・製 品を中心に	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2027 年 3 月	代表
8	竹中 悠美	ニューヨーク近代美術館における写真 史編纂の系譜学	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
9	田中 弘美	織物の光沢発生メカニズムの解明と光 沢色の再現	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
10	田中 聡	京都における地域住民の歴史意識変容 に関する研究	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	代表
11	谷 徹也	文化・情報の交錯からみた東アジア 「近世化」論—壬辰戦争の背景と影響—	若手研究	2022 年 4 月	2026 年 3 月	代表

12	THAWONMAS Ruck	LLM ファインチューニングによる対戦格闘ゲーム AI の革新	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
13	中村 大	先史人類の人口動態に関する研究	学術変革領域研究(A)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
14	西浦 敬信	次世代ピンスポットオーディオシステムの基盤創成と体系化	基盤研究(B)	2023 年 3 月	2027 年 3 月	代表
15	西林 孝浩	中国北朝後期仏教美術の再構築	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
16	花岡 和聖	センサスデータを用いたオーストラリアにおける移民の地方定住に関する地理学的研究	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	代表
17	原田 史子	温熱快適感予測に基づく着装推薦システムの開発	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
18	前田 亮	日本文化デジタルアーカイブの多言語データ統合の研究	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
19	松葉 涼子	日本伝統木版画の材料・技法・地域連携の総合的研究	研究活動スタート支援	2025 年 7 月	2027 年 3 月	代表
20	三須 祐介	中国伝統劇の「記録」と「記憶」に関する研究	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	代表
21	八重樫 文	生理学的指標に基づく企業のデザイン職／非デザイン職におけるデザイン態度の評価	挑戦的研究(萌芽)	2022 年 6 月	2026 年 3 月	代表
22	矢野 桂司	学際的な研究基盤となる日本の「GIS 地名辞書」の開発に関する地理学的研究	挑戦的研究(開拓)	2022 年 6 月	2026 年 3 月	代表
23	矢野 健一	AUV と ROV を併用した水中遺跡ロボット調査法の確立と葛籠尾崎湖底遺跡成因の解明	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
24	山内 啓之	等身大の没入型 VR 地理教材の開発と教育効果の検証	若手研究	2025 年 4 月	2029 年 3 月	代表
25	李 亮	3 次元画像認知メカニズムの解明へ向けた実験基盤の構築とその応用	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	代表
26	美龍 硬幸	Research on analyzing Mongolian legal documents using AI	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2029 年 3 月	代表
27	矢野桂司	不完全空間情報による空間推論のためのツールボックスの開発と応用	基盤研究(A)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	分担
28	李 亮	動的デザインと「美しさ」への感性	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
29	赤間亮	第三期(安永～享和期)役者評判記の出版に関する総合的研究	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
30	木立雅朗	高精細な胎土分析を用いた中世の地産地消型窯業製品の在地的流通状況の解明	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担
31	木立雅朗	京焼の産業民俗・都市民俗学的な研究基盤形成－観光開発による産業集積解体に際して	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
32	西浦敬信	ランニング障害予防に向けたオーディオピンチングによる運動変容の研究	基盤研究(A)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担
33	SEIFMAN Travis	琉球使節の行列絵巻に関する基礎的研究 －「異国」の演出と表象	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担
34	山内啓之	先端研究・技術と教育の連携によるデジタル防災地形学の構築	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担
35	斎藤 進也	昭和期の映画館文化に関するノンフィクション資料アーカイブの構築	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
36	稲葉光行	デジタルフォレンジクスのための日本語著者識別システムに関する研究開発	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
37	稲葉光行	犯人識別手続きの適切化に関する実証的研究	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2029 年 3 月	分担
38	稲葉光行	TPACK フレームワークによる臨床スキル習得のための学習ゲームの開発	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担
39	大田壮一郎	地方寺院経蔵の再生を基盤とする宗教文化圏の解明	基盤研究(A)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担

40	中村大	日本列島域における先史人類史の総合的復元方法の研究	学術変革領域研究(A)	2023 年 4 月	2028 年 3 月	分担
41	中村大	初期国家形成期における山城地域の地域開発と地方政体の成長に関する包括的研究	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
42	花岡和聖	気候変動に適応する「流域空間デザイン」の方法論的開発	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
43	三須祐介	性別規範の変遷から再構築する華語文学史	基盤研究(A)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
44	三須祐介	日本所蔵中国戯単の総合的研究	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	分担
45	八重樫 文	デザイン思考の促進メカニズムおよびデザイン戦略としてのインクルージョンの評価	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
46	八重樫 文	ブランド経験・行動的经验における身体性と顧客成果への影響のモデル化	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
47	鈴木桂子	19 世紀のオランダとイギリスの日本向け染織品輸出:「輸出市場としての日本」研究	挑戦的研究 (萌芽)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	
48	鈴木桂子	1850~1930 年におけるサンギュラリテ製品の交易発展—輸出振興と情報プラットフォーム	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	赤間 亮	伝統木版画の総合アーカイブ構築とアート連携を通じた人材育成支援プログラム	国庫補助金業務（特定事業）・25 補_文化庁_芸術家育成事業_赤間亮_文学部	2025/4/1	2026/3/15	代表
2	赤間 亮	メディア芸術コンテンツ分野における映像オーラル・ヒストリー及び同人創作コンテンツ関連資料のデジタルアーカイブ構築	学外共同研究（民間）・25 共同_ZEN 大学 コンテンツ産業史アーカイブ研究センター_赤間亮_文	2025/4/1	2027/3/31	代表
3	赤間 亮	スポーツデジタルアーカイブの構築	学外共同研究（民間）・25 共同_独法_秩父宮スポーツ博物館_赤間亮_文	2025/4/1	2026/3/31	代表
4	赤間 亮	東京芸術劇場所蔵資料のデジタル化およびアーカイブ構築に関する研究	学外共同研究（民間）・25 共同_公財_東京都歴史文化財団_赤間亮_文	2025/4/1	2026/3/31	代表
5	赤間 亮	「川島織物セルコン」の図案・織物のデジタルアーカイブ化と活用に関する共同研究	学外共同研究（民間）・25 共同_株式会社川島織物セルコン_赤間亮_文	2025/9/19	2027/3/31	代表
6	赤間 亮	UCLA Yanai イニシアティブ デジタル・アーカイブプロジェクト	受託事業（民間）・25 受事_UCLA Yanai (1 回目)_赤間亮_文	2025/1/16	2025/6/30	代表
7	赤間 亮	古文書・古典籍の読解（くずし字解説）を通じた若手研究者の国際交流事業	受託事業（民間）・25 受事_国際日本文化研究センター_赤間亮_文	2024/4/1	2026/3/31	代表
8	赤間 亮	カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）柳井イニシアティブとり詰め貫大学アート・リサーチセンターとの覚書の締結	受託事業（民間）・25 受事_UCLA Yanai (2 回目)_赤間亮_文	2025/7/1	2027/6/30	代表
9	赤間 亮	「第5回「忠臣蔵」浮世絵デジタル展覧会の構築」	受託研究（民間）・25 受民_赤穂市_赤間亮_文	2025/4/23	2026/3/31	代表
10	赤間 亮	2025 年度「国際交流のタベ 能と狂言の会」における実演映像素材制作および配信等による鑑賞機会創出の実例研究	受託研究（民間）・25_受民_独法国際交流基金京都_赤間亮_文	2025/8/27	2026/3/31	代表
11	赤間 亮	「新橋演舞場戦前興行関連資料のデジタル化と閲覧システムでの公開による地域芸能史研究への活用」	受託研究（民間）・25_受民_公財松竹大谷図書館_赤間亮_文	2025/8/28	2026/3/31	代表
12	赤間 亮	国立音楽大学附属図書館所蔵 近世音楽資料（竹内道敬文庫およびベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション）の研究活用のためのデジタルアーカイブの構築と公開手法に関する研究	受託研究（民間）・25_受民_国立音楽大学附属図書館_赤間亮_文	2025/11/17	2026/3/31	代表
13	松葉 涼子		奨学寄附金（衣笠研究機構）・25 奨寄_セインズベリー日本藝術研究所_	2024/4/1	-	代表

			松葉涼子_文			
14	赤間 亮		奨学寄附金（衣笠研究機構）・25 奨寄_川島織物セルコン_赤間亮_文	2025/3/18	-	代表
15	赤間 亮		奨学寄附金（衣笠研究機構）・25 奨寄_株式会社キョーテック_赤間亮_文	2025/6/20	-	代表
16	赤間 亮		奨学寄附金（衣笠研究機構）・25 奨寄_江西寺_赤間亮_文	2025/6/20	-	代表
17	赤間 亮		奨学寄附金（衣笠研究機構）・25_奨寄_京都村正_赤間亮_文	2025/9/19	-	代表
18	矢野 桂司		奨学寄附金（衣笠研究機構）・25_奨寄_株式会社フージャースコーポレーション_矢野桂司_文	2025/11/21	-	代表
19	赤間 亮		奨学寄附金（衣笠研究機構）・25_奨寄_野路町施財管理組合_赤間亮_文	2025/11/21	-	代表
20	赤間 亮		奨学寄附金（衣笠研究機構）・25_奨寄_美術書出版株式会社芸艸堂_赤間亮_文	2025/11/21	-	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1	立命太朗	特許（国内）	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本